

官報 號外

大正四年十二月九日 木曜日 印刷局

第三十七回 衆議院議事速記録第四號

大正四年十二月八日(水曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第三號 大正四年十二月八日

午後一時開議

一 國務大臣ノ演説ニ對スル質疑

(前會ノ續)

第一 東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三 軍人恩給法中改正法律案(高木正年君) 第一讀會

第四 軍人恩給法中改正法律案(水津太郎平君) 第一讀會

第五 軍人恩給法中改正法律案(柏原文太郎君) 第一讀會

第六 地租條例中改正法律案(中山梅治郎君) 第一讀會

第七 營業稅法廢止法律案(高木益太郎君) 第一讀會

第八 東方調查局設置ニ關スル建議案(伊東知也君提出) 第一讀會

○副議長(法學博士花井卓藏君) 議長ハ赤坂御所ヘ參賀ノ爲メ參ラレマシタカラ、暫ク私が代理ヲ致シマス、是ヨリ會議ヲ開キマス、諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

稅制整理ニ關スル建議案

提出者 石橋 爲之助君 津原 武君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

地方青年團體ニ關スル質問主意書

提出者 匹田 銳吉君

常任委員ノ補闕選舉ニ左ノ通り當選セラレタリ

第六部請願委員 松本 恒之助君

第七部請願委員 本間 三郎君

(參照)

議員席次ノ變更左ノ如シ

百五十五番 岡崎 久次郎君

二百〇二番 坂口 拙三君

官報號外 大正四年十二月九日(三月三十一日第三種郵便物認可)

衆議院議事速記録第四號 議長ノ報告議員請願ノ件 東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案 第一讀會

○副議長(法學博士花井卓藏君) 御諮リヲ致スコトガアリマス、白川友一君ヨリ病氣ノ爲メ、今八日ヨリ向フ三週間請假ノ申出ガアリマシタ、許可シテ御異議ガゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 許可スルコトニ致シマス、第六部選出豫算委員阿由葉鎗三郎君、第二部選出決算委員大坂金助君、右兩君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可シテ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 許可致スコトニ致シマス、六部ノ二部ノ諸君ハ補闕選舉ノ上結果ヲ議長ヘ報告アラムコトヲ望ミマス、尙御諮リヲ致スコトガアリマス、本日ハ國務大臣ノ演説ニ對スル質疑アルベキ日デアリマス、唯今時刻ニ於キマシテ差支ガアリマシテ、出席セラレナイノデゴザイマスルカラシテ、其出席ノアルマデ延バスト云フコトニ致シタイト存ジマスルガ、御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 然ラハ御異議ハナイト認メマスカラ、日程ノ議事ニ移ルコトニ致シマス、日程第一、東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案——政府委員

第一 東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本 第一讀會

增加ニ關スル法律案(政府提出)

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案

(政府委員男爵眞鍋斌君登壇)

○政府委員(男爵眞鍋斌君) 唯今此議題トナリマシタコロノ東京大阪兩砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ノ件ニ關シマスルコトコロノ法律案、即チ今諸君ノ御手許ニ迴ッテ居ルコトコロノ法律案デゴザイマス、之ニ付キマシテ此増加ヲ要シマスルコトコロノ理由ノ概略ハ、御手許ニアルコトコロノ議案ニ添付サレテアリマス、大要ノ所ニ於キマシテハ斯クノ通りデアリマスガ、尙之ニ付キマシテ少シク具體的ニ此理由ヲ申上ゲテ諸君ノ御贊成ヲ得タイト考ヘマス、抑、此兩砲兵工廠ノ据置運轉資本ト申シマスルモノハ、明治二十年法律第三號ニ依リマシテ、從前ノ額ヲ増サレマシタコロノ額ガ、東京砲兵工廠ガ二百万圓、大阪ノ砲兵工廠ガ百五十万圓ダケ増サレタノデアリマス、然ルニ其後御承知ノ通り、軍備擴張其他種々ノ之ニ付コトコロノ兵器ニ屬スル諸種ノ製造等ノ爲ニ、此合計三百五十万圓ノ据置運轉資本デハ、到底此作業力ニ應ジ切レナイ有様ニナッテ居ッタデアリマス、ソレデ此増加ノコトハ是マデ既ニ屢、此増加ノコトヲ請求致サネハナ

ラヌ事情ニ差迫テ居リマシタガ、一般ノ財政ノ狀況等ニ鑑ミテ、陸軍ニ於キマシテハ、成ルベク出來得ル限リノ方法ヲ以テ、今日マデハ此増加ノ要求ヲ致シマセヌ、テソナラ其間ドウシテ之ヲ以テ行テ往々カト申シマスルコト云フト、前受ノ方法ニ依リマシテ、今日マデハドウカスウカ支ヘテ行テ往々カト申シマス、然ルニ此前受ノ方法ニ依リマシテ、經常部ノ方ニ於キマシテ、前受ヲ以テ之ヲヤルト云フコトハ、實際出來得ナイコトデアリマシテ、其方法ハアリマシテモ、是ハ實際ニ出來得マセヌ、然ルニ幸ニモ——幸ヒデゴザイマシタカドウデゴザイマシタカ分リマセヌガ、此運轉資本ノ方ニ付テハ幸ヒデアリマシタ、丁度其間臨時軍事費ト云フモノヲ以テ、總テ此支辨ノタメニヤツテ居リマシタ、即チ臨時軍事費ノ年割額ト云フモノガアリマシタノデ、此年割額ヲ以テ前受ヲ致シマシテ、サウシテ、是デ以テ今日マデ支ヘ來ツテ居ル次第デアリマス、ソレデ今本年度位ハ此今ノ臨時軍事費ノ前借テ參ラレマスガ、此臨時軍事費ノ年割額モ追々減少シマスシ、又之ニ削減モサレマシタノデ、此前借ヲ——前受ヲ致シマスルコトコロノ金モ段々無クナリマシタ、ソレデドウシテモ今後ハ据置運轉資本ヲ増加致サセナレバ、作業が出來ヌト云フコトニナリマス、ソレデ此度ノ要求ハ東京砲兵工廠並ニ大阪砲兵工廠共ニ同額ニスルヤウニ要求ヲ致シタノデアリマス、ソレニ付テハドウ云フ譯デ、之ヲ同様に増額スルカト云フコトコロノ、或ハ御不審ガアリマセウカト考ヘマス、デ其大要ヲチヨット申述ベシテ、尙詳細ナル事ニ付キマシテハ、ドウ委員會デ御尋ヲ願フヤウニ致シタイト考ヘマス、全體此運轉資本ヲ、是ダケ増加シナケレバナラヌト云フ大體ノ理由ニ付キマシテハ、是ハ申スマデモナク、御承知ノ通り東京砲兵工廠ニ於キマシテモ、從前ノ運轉資本デハ、平常ニアリマシテモ參リマセヌ、是ハ所謂軍隊ヲ擴張シマシタ結果、既ニ兵器ノ製造力ヲ増サネバナラヌト云フコトガアリマス、又一方大阪砲兵工廠ノ方ニ於キマシテハ、從來ハ造リマスルコトコロノ大砲ガ小サイ大砲デアリマシテ、近頃ハ是ガ大キナ大砲ヲ造ラナケレバナラヌコトニナリマシタ、即チ此兵器ノ製式ガ段々進歩改良シテ來ルニ從ツテ、サウ云フ風ニナリマシタ、ソレガ爲ニ大阪砲兵工廠モ以前ノ百五十萬圓ノ運轉資本デハ到底イケンナイノデ、ソレガ爲ニツマリ増シマスルコトコロノ大要ヲ具體的ニチヨット申シマスレバ、サウ云フヤウナ次第デアリマス、ソレデ今此運轉資金ヲ増シマスニ付キマシテ、之ヲ國庫カラ更ニ別途ナモノヲ以テ仰ギマスルコト云フト、サウデアアリマセヌ、ヤハリ國庫カラ更ニ出シテ貴ヒマセヌヤナリマセヌガ、是ハヤハリ、此兩砲兵工廠ヲ製作ヲ致シマシタ其利益金ヲ、即チ政府ノ國庫ニ入レマシテ、サウシテ更ニ其金ヲ今度出シテ貴フト云フ理窟ニナルノデアリマス、之ヲチヨット概略ヲ言ヒマスレバ、大正元年ヨリ大正三年度マデニ、二百六十萬圓ト云フモノヲ兩砲兵工廠カラ國庫ニ納メテ居リマス、ソレカラ此四年度ニ於キマシタ、是ハ大藏當局者ト、條件附テ運轉資本ヲ増ス爲ニ、條件附テシテ丁度此今ノ前ノ二百六十萬圓ノ外ニ二百萬圓バカリハ、是カラ四十年度ニ於テ漸々國庫ニ納入ヲシテ行クコトニナツテ居リマシタ、ソレデアリマスカラ、此増シマスルコトコロノ金ハ、別ニ國庫カラ殊更ニ外ノモノカラ仰グモノデアアリマセヌ、ヤハリ兩砲兵工廠ノ利益金ヲ國庫ヘ納メマシテ、ソレヲ今度更ニ國庫カラ出シテ貴ヒマスルコト云フ次第ニナリマスデアリマス、テ尙此以上ノ細部ニ互ル御質問ガアリマスレバ、是ハ委員會ニ於テドウカ十分ニ御質問ヲ願ヒマス、右ノ次第デアリマス、デ本案ニ速ニ御賛成アツテ可決アラムコトヲ希望致シマス

○武藤金吉君 質問致シマス、本案ハ兩砲兵工廠ノ事業擴張ノ案ノヤウデアリマスガ、此事業擴張ニ至リマスルコトハ、兵器製造ニ依ルコトハ勿論デアリマセウと思ヒマス、我政府ハ露西亞ノ政府カラ兵器ノ製造ヲ委託サレマシタ結果、總テノ機關其他ヲ増設ヲ致シテ居ル答デアリマス、而シテ此増設ハ永久的ニ設備スルノ必要ガ起ツテ、此案ガ出タノデアリマスルカ、尙外國カラ此兵器ヲ注文ヲ受ケツ、アルガ爲ニ、之ヲヤルノデアリマスルカ、又歐羅巴戰爭ノ結果ト致シマシテ、兵器彈藥ノ上ニ於テ非常ノ改良ヲ認メラレタノデアリマス、又敵國ノ獨逸ノ如キハ、非常ニ此大砲ニアリマシテモ小銃ニ致シマシテモ、今回ノ戰爭ニ付テハ今マデ世界テ豫期シテ居ル以上ノ砲ヲ使ツテ居ルデアリマス、露西亞ノ如キ其他聯合軍ハ、兵器ニ於テモ彈藥ニ於テモ非常ニ缺乏シテ居ルヤウノ狀態デアルコトハ、吾々ガ漏聞クトコロデアリマスガ、我陸軍省ニ於キマシテハ、今後此戰爭ガアツタ時ニハ、唯今ノ設備十分デアリマスルカ、又歐羅巴戰爭ノ影響ト致シマシテ、ドノ位ノ程度デドノ位戰が出来ル位ノ設備デ此計畫ヲヤルモノデゴザイマス、願クハ本會ノ席上ニ於テ、モウ少シ具體的ニ大體ノ御説明ヲ承リタイト思フノデアリマス

(政府委員男爵眞鍋斌君) 武藤君ノ御質問ニ對シマシテ御答致シマス、今御尋ノ要旨、此据置運轉資本ヲ増加致シマスルコト云フコトニ付キマシテハ、決シテ此度ノ歐洲戰亂ニ付テ、他カラ注文ヲ受ケマシタ其影響ヲ以テ是ハ致スノデアアリマセヌ、先刻モチヨット申シマシタ通り、此運轉資本ノ増額ト云フコトハ、軍備擴張ノ結果及大砲ノ製作大砲ノ式ガ進歩シタ結果、是等ノ爲ニ即チ砲兵工廠ノ平時ノ作業力ト云フモノガ、以前ヨリ殖エマス譯デアリマス、其實今ハドウ云フ作業力ヲ有ツテ居ルカト云フト、今日ノ作業力ヲ金デ致シマスルコト云フト、其不斷ノ作業力ガ詰リ八百萬圓位ガ平常ノ作業力デアリマス、所ガ今實際ノ作業力ハ何ボト云フ——今チヨット數字ヲ能ク覺エマセヌガ、サウ云フ作業力ニナツテ居リマス、ソレデアリマスカラ、今ノ作業力ニ對シテハ、是ダケノ運轉資本ヲ増シタト云ウテモ及バナイデアリマス、及バナイデアリマスガ、ソレハ今申シマシタ通り、此前借ヲ以テ之ヲ補ツテ居ルヤウナ譯デアリマス、ソレデ將來ニ向ツテハ即チ砲兵工廠ノ作業力ト云フモノガ、是ハ常ニズツト平均シマシタキノ作業力ト云フモノガ八百萬圓——金ニシテ八百萬圓ノ作業力ガ要リマス、是ハ即チ前申シマスル通り、此軍備擴張ト砲ノ製式ノ變タ爲ニ、サウ云フ作業力ヲ施シテ來ナケレバナラヌ結果ニナリマシタ譯デアリマス、此八百萬圓ト云フモノニ對シマシテ、据置運轉資本ト云フモノハ、幾許要ルカト云フト、即チ兩砲兵工廠ヲ合シテ七百萬圓程無クテハイケンナイト云フ譯ニナリマス、ソレデアリマシテ、此出シマシタコトコロノ法律案ハ、今ノ歐羅巴カラノ注文トカ何トカ云フモノニ對シテノ擴張ノ爲メハ全クアリマセヌ、其方ノ事柄ハ又別ノ問題ニナリマス譯デ、ソレニ對シテ、ソナラ何モ増シテ居ラヌカト云フト、ソレハ若干ノ之ニ付テノ擴張ハ致シテ居リマス、併ナガラ是モヤハリ今御尋ノ如ク、將來ニ於テハヤハリ今日ノ有様デハ、日本ノ戰時ニ當ツテ兵器ヲ製造シマス事柄ガ、今ノ儘十分デアリマスルカト云フト、ソレハ固ヨリ十分デアリマセヌ、ソレデ今擴張シテ居ル所ノモノモ、總テハ之ヲヤハリ常備ノ擴張ニ何レハシナクテハナラヌコトデアラウト考ヘマスガ、其等ニ對スル所ノモノハ、先ヅ今日ハ全ク此法律案トハ別ノモノデアリマス、此法律案ハ平常ノ兩砲兵工廠ノ

作業力ニ對シテ、運轉資本が不足シテ居ルカラ、増シテ貰ハウト云フ事ニ過ギマセヌ話アリマス、ソレカラ歐洲戰亂ノ後ニ於テ、如何ナル方法ヲ以テ、如何ナル手段ヲ執ツテ、此兵器ナドヲ製造スルカト云フ御質問ニ對シマシテハ、今は茲ニ一ノ調査機關ヲ設ケテ、ソレノ調査シテ居リマス、今ソレヲドウ云フ風ニシテ此後ヤツテ行クカト云フコトハ、具體的ニマダ御話スルノ時期ニ達シテ居リマセヌ、何レ是ハ其調査ノ上デハ、何レ御話スルコトノ出來ルヤウニナラウト考ヘマス、ドウカ左様御承知ヲ願ヒマス

○武藤金吉君 尙御尋致シマス、曾テ陸軍大臣ハ其所ニ於テ、露西亞カラ澤山ノ軍器ヲ注文ヲ受ケタニ付キマシテハ、新ニ「ボイラ」モ増シタ、機械モ増シタ、其他ノ物モ皆増シタガ、永久ニ之ヲヤツテ行クト云フ事ニ付テハ、勢ヒ此砲兵工廠ノ事業擴張ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ言ハレテ居ルサウデアリマスガ、此邊ハ此案ト關係ガ無イト唯今參政官ノ御説明デアリマスガ、陸軍大臣ハ確カニ其事ヲ言ハレテ居ルヤウニ承テ居リマスガ、事實ニ於キマシテ、昨年以來多額ノ兵器ヲ製造シテ居ッテ、既ニ總テノ設備ガ増シテアル、増シテアルノニモ拘ラズ、歐羅巴ノ戰亂ニ關係ガ無イト云フコトハ、參政官ニ於カレテハ、マダ御研究ガ足ラナイノデナイカ、願クハ陸軍大臣ト御協議ヲナサツテモ宜イガ、打合セヲナサツテ親切ニ御説明アリタイト私ハ更ニ望ムデアリマス

○政府委員(男爵眞鍋斌君) 私ハ決シテ研究ノ足ラヌコトハ無イト、自分デハ信ジテ居リマス、成程、如何ニモ私ハ此度初メテ斯ウ云フ地位ニ立チマシタノデ、アナタ方ニ於カセラレテハ、極メテ御不安心カ知リマセヌガ、私自身シテハ決シテ不調ベノ事ヲ申上ゲタ積リデアリマセヌカラ、今ノ御話ニ付キマシテハ、陸軍大臣カラサウ云フコトガアツタト云フコトデアリマスレバ、尙取調ベマシテ御答ヲ致スコトニ致シマセウガ、私ノ今申上ゲマシタノハ、私トシテハ決シテ不調ベナリ積リデアリマスカラ、ドウカワレダケハ御承知ヲ願ヒタイ

○副議長(法學博士花井卓藏君) 別ニ御質問モナイヤウデアリマスカラ、日程第二ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉
○福田又一君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託致シマシテ、審査セシメラレンコトヲ望ミマス
(「贊成々々」ノ聲起ル)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 議長指名九名ノ委員ニ付託スルニ御異議ハアリマセヌカ
(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 御異議ガアリマセヌカラ其通り取計ヒマス、日程第三軍人恩給法令中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第三 軍人恩給法令中改正法律案(高木正年君外十名 第一讀會 提出)

軍人恩給法令中改正法律案
軍人恩給法令中改正法律案

宣統號外 大正四年十二月九日

衆議院議事速記第四號

右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉 軍人恩給法令中改正法律案 第一讀會

第十八條第七號中及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ノ削減
同條ニ左ノ一號ヲ加フ
八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ若クハ屯田兵村監視又ハ屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數

明治四十四年法律第五十九號附則第二項、第三項及第五項乃至第八項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ
明治四十四年四月一日以前現役ヲ離レ現ニ退職恩給、免除恩給、増加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニ給スヘキ恩給金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル

陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭葬並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法規定ノ金額ヲ給ス
附則
本法ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十八條第八號ノ規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レタル者ニモ之ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給ヲ給ス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 高木正年君
(高木正年君登壇)
○高木正年君 此法律案ハ每期議會ニ提出セラレツ、アル法案デアリマス、殊ニ本年夏期ノ議會ニ於キマシテハ、本議會ヲ通過シテ居ルデアリマス、唯前議會ノ案ト異リマス點ハ、施行期日ガ前議會ノ案ハ命令ニ委セルト云フコトデアツタノヲ、今回ハ大正六年ヨリ之ヲ施行スルコトニ改メタノガ、變テ居ルデアリマス、既ニ前議會ニ於テ通過シタル法案ナルガ故ニ、殊更此理由ヲ詳説スル必要ハナイト考ヘマスカラ、總テ自分ニ於テハ說明ヲ略シタイト思フデアリマス、唯一言此案ニ向テ特ニ政府及議會ニ於ケル諸君ノ御考慮ヲ喚ビタイト考ヘマス點ハ、外デハナイデアリマス、我邦ノ國防中心ハ孰レノ點ニ在リヤト考ヘ來リマス、現在ノ所謂現役ナルモノハ、歩兵ニ於テハ其二分ノ一ハ所謂新募兵デアリマス、未ダ訓練ヲ經ザル兵デアリマス、特科兵ニ於テモ三分ノ一ハ歩兵ノ一年兵ト同シク、未ダ十分ニ兵事教育ヲ終ツタモノトハ言ハレナイデアリマス、是等ノ部分ヲ取除キマシタ其他ノ兵數ヲ數ヘ來リマス、一朝有事ノ秋ニ於テ國防ハ如何ニスルカト云フト、是非トモ豫備後備ノ部隊ニ向テ動員ヲ施行セバ、國防上ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ狀態ニアルコトハ、殊更ニ私ガ申上ゲルマデモ無イトデアリマス、是ニ於テ近來在郷軍人ノ上ニ付テ、深キ深キ注意ト、其狀態ノ上ニ付キマシテモ、國家ガ之ニ向テ特ニ考慮ヲ煩ハシツ、アルト云フコトハ、國防ノ中心軍人在郷軍人ノ上ニ在リト謂ハネバナラヌデアリマス、此ノ如ク觀察シ來リマスル所ニ於テ、國家ガ與フル所ノ恩典ノ上ニ付テ、所謂等差ヲ設ケテ一部ニ厚クシテ一部ニ輕シト云フガ如キハ、縱令軍人其人ニアラズ、其士氣ノ上ニ毫モ變ルコトナシト信ス

ベキ所ナルモ、之ヲ國家ノ上ヨリ對シテ、之ヲ以テ是等ノ軍人ヲ俟ツト云フコトハ、頗ル不公平ナル待遇ナリト觀察セバナラヌデアリマス、此點ニ於テ私共ハ寧ロ二師團ノ増設以上ニ、在郷軍人ノ待遇ノ上ヲ均一ニシテ、國家ノ恩典ヲシテ等シク其惠ニ類フシムルト云フコトハ、所謂舉國皆兵ノ上ニ於テ、最も必要ナル點デアルト私ハ考慮スルデアリマス、就テハ財源ノ點ニ於テモ一言シナケレバナラヌデアリマス、前議會ニ於テハ是等ノ點ニ考慮シテ、政府ハ財政整理ノ上ニ於テ軍人恩給法ノ改正ニ要スル費用ノ繰合セヲ爲サンガタメニ、特ニ命令ニ施行期日ヲ委カシタデアリマス、然レドモ過去ノ議會ノ方ハ、本議會ニ未ダ政府ガ提出スルニ至ラヌデアリマス、是ニ於テ私共ハ自ラ進ンデ此法案ノ施行期日ヲ定メテ、政府ヲシテ是非共之ヲ實行セシメナケレバナラヌト云フ考デアリマス、併ナガラ物ニハ順序アリ、多少ノ歲月ヲ要スベキモノト考ヘルデアリマス、故ニ假スニ一年ヲ以テシテ、大正六年ヨリ此法ノ實行ヲ是非共爲サンコトヲ切望スルガタメニ、當議會ノ始メニ於テ此法案ヲ提出シタ次第デアリマス、願クハドウガ前回ニモ通過シテ居ル案デアリマスカラ、諸君ニ於テモ全會一致ヲ以テ御通過アランコトヲ、深く私ハ希望シテ止マヌデアリマス(拍手起ル)

○福田又一君 本案ヲ議長指名ノ十八名ノ特別委員ニ付託シテ、審議セシメラレムコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 福田又一君ノ動議、十八名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 御異議ガアリマセヌカ其通り取計ラヒマス、日程第四、軍人恩給法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——木津太郎平君

第四 軍人恩給法中改正法律案(木津太郎平君外二 第一讀會 名提出)

軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

明治四十四年法律第五十九號附則第二項、第三項及第五項乃至第八項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ

明治四十四年四月一日以前現役ヲ離レ現ニ退職恩給、免除恩給、増加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニ給スヘキ恩給金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル

陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭案並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法規定ノ金額ヲ給ス

附則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○木津太郎平君 此席ヨリ簡單ニ申上ゲマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 宜シウゴザイマス

○木津太郎平君 唯今前提出者高木正年君ヨリ提出セラレマシタコロノ改正案ト同一ノ案デアリマス、其案ノ内容、第三十六議會ニ於キマシテノ經過等ニ於キマシテハ、私ハ茲ニ重ネテ其内容等ヲ申上ゲマスコトハ省略シマス、唯施行期日ノ異ナルダケデアリマス、是ハ唯今高木君ヨリノ説明ニ依リマスルト、調査時日ヲ與ヘムガタメニ大正六年トスルト云フコトデアリマシタガ、私共ノ出シマシタ案ハ大正五年四月一日ト云フコトニナッテ居ルデアリマス、此軍人恩給法中改正法律案ノ出マシタノハ、確カ第三十一議會以來ノ事柄デアリマスノデ、第二十六議會ニナッテ始メテ現ハレタ問題ハナインデアリマス、デアリマスカラ財政ノ許ス限リハ、一年ナリトモ早ク是ガ實施ヲ見タイト云フ趣旨カラ致シマシテ、吾々ハ大正五年四月一日カラ之ヲ實施スルト云フコトニ致シマシタ次第デアリマス、尙詳細ノコトハ委員會ニ於キマシテ説明ヲ致シマスガ、願クハ高木君ノ案同様諸君ノ御贊成ヲ得タイト思ヒマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○福田又一君 本案ヲ第三日程ノ法律案ト同一ノ特別委員ニ付託シ、審査セシメラレムコトヲ望ミマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 福田又一君ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(法學博士花井卓藏君) 其通り決シマシタ、第三日程ノ法律案ノ委員ニ合セ付託スルコトニ致シマス——日程第五、軍人恩給法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——柏原文太郎君

第五 軍人恩給法中改正法律案(柏原文太郎君外一 第一讀會 名提出)

軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

明治四十四年法律第五十九號附則第二項、第三項及第五項乃至第八項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ

明治四十四年四月一日以前現役ヲ離レ現ニ退職恩給、免除恩給、増加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニ給スヘキ恩給金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル

陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭案並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法規定ノ金額ヲ給ス

附則

本法ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○柏原文太郎君 此席カラ簡單ニ申シマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 宜シウゴザイマス

○柏原文太郎君 私ノ提議致シマシタル軍人恩給法中改正法律案ハ、高木君ノ案

ト殆ト同シデアリマス、其内容ニ至テモ同一デアリマス、コレ故ニ總テ説明ヲ省略致シマス、此理由書ヲ御覽ヲ願ヒマス、尙細カナ點ハ委員會ニ於テ詳細ニ申上ゲタイト思ヒマス、ドウカ御賛成ヲ請ヒマス

○福田又一君 本案モ同ジク第三日程法律案ト同一ノ特別委員ニ付託シ、審査セシメラレムコトヲ望ミマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 福田又一君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
○副議長(法學博士花井卓藏君) 其通り決シマシタ——日程第六、地租條例中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——中山梅治郎君

第六 地租條例中改正法律案(中山梅治郎君外二名 第一讀會 提出)

地租條例中改正法律案
地租條例中左ノ通改正ス

第一條第一項中「田畑地價百分ノ四箇五ヲ田畑地價百分ノ四箇ニ改ム」
同條第二項中「田畑地價百分ノ三箇ニヲ田畑地價百分ノ三箇ニ改ム」

附則
本法ハ大正五年度分ヨリ之ヲ施行ス

○中山梅治郎君 本案ハ提出者藤井善助君ヨリ説明致シマスコトニ、昨日御手許マデ通知ヲ發シテ置イタルデアリマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) ドウ云フデゴザイマスカ

○中山梅治郎君 御手許マデ提出者ノ藤井善助君ガ説明致シマサウニ、昨日通知ヲ致シテ置イタダス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 藤井善助君

(藤井善助君登壇)
○藤井善助君 地租條例中改正法律案ノ理由ヲ申述ベマス、本案ハ屢、當議場ニ現ハレマシテ、其都度説明ガ繰返ヘサレテ居ルデアリマスカラ、此處ニ詳細ナル説明ヲ致シマスコトヲ避ケマシテ、私ハ最も簡單ニ茲ニ重ネテ提案ヲ致シマシテ趣旨ヲ辯明致シマス、

本案ハ現行地租條例中第一條第一項ニ於テ「田畑ノ地價百分ノ四箇五」トアリマスノヲ「百分ノ四箇」ニ改メ、同條第二項ニ於テ「田畑ノ地價百分ノ三箇」トアリマスノヲ「百分ノ三箇」ニ改メ、何レモ大正五年度分ヨリ實施シタイト云フノガ本案ノ趣旨デ

ゴザイマス、本案ハ前々議會ニ於キマシテモ、前議會ニ於キマシテモ同一ノ案ガ提出サレタデアリマス、前々議會ニ於キマシテハ、未ダ審議ニナラズシテ議會ガ解散トナリ、前議會ニ於キマシテハ委員ニ付託サレマシテ他ノ是ト同様ノ案ト共ニ委員會ヲ開クコト數回デアリマシタガ、決議ニ至ラズシテ會期ガ終了致シタ次第デアリマス、併ナガラ本案ノ必要ヲ今ニ於テ少シモ減退セザルノミナラズ、而モ寧ロ却テ其急要ニ迫ラレツ、アルノデゴザイマス、御承知ノ通り近年米價ガ非常ニ低落ヲ致シマシタガタメニ、我國ノ最

モ多數ノ生産ヲ致シマス所ノ農民ハ、殊ニ疲弊困憊其極ニ陥リ、農村ノ衰頹萎靡ノ狀態ハ洵ニ言フニ忍ビザルモノガアルノデゴザイマス、曩ニ是ガ救済ノ一端トシテ、米價調節ノ應急策ガ施サレマシタケレドモ、其方法ノ宜シキヲ得マセズシテ其實效ノ奏セザリシ

コトハ、諸君御承知ノ通りデゴザイマス、此時ニ於テハ此農民ノ苦痛ヲ救ヒ、此農民ノ負擔ヲ輕減致シマス上ニ於キマシテ、此地租ヲ輕減致シマスコトハ、最も適切ナ方法デア

ルト確信ヲスルノデゴザイマス、政府ニ於キマシテモ所謂民力休養ノ第一著手トシテ、國民ニ對スル公約ヲ實行セラル、トコロノ誠意ヲ表示セラレ、此案ノ實行ニ至ラムコトヲ同意サレムコトヲ望ムノデゴザイマス、殊ニ本年ハ、我國國家無上ノ御大典ヲ舉行サレマシタ時ニ方リマシテ、古來御即位ノ大禮ヲ舉ゲサセラル、場合ニ方リマシテ、普ク國民ニ賦役ヲ免除シテ、仁政ヲ施サル、トコロノ嘉例モ往々アルノデゴザイマスカラ、此場合ニ於テ一大仁政ヲ施サレテ、此農民ヲ苦痛ヨリ救フト云フコトニ至リマスルヤウニ、本案ノ實行ニ至ランコトヲ切望スル次第デゴザイマス、願クハ滿場ノ諸君ニ於キマシテモ、一致ヲ以テ御贊同下サレテ、本案ノ速ニ可決確定サル、コトニ至ランコトヲ希望致シマス(拍手起ル)

○福田又一君 本案ハ議長指名十八名ノ特別委員ニ付託シ、審議セシメラレムコトヲ望ミマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 福田君ノ動議ノ如ク、議長指名十八名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
○副議長(法學博士花井卓藏君) 其通り致シマス、日程第七、營業稅法廢止法律案第一讀會——高木益太郎君

第七 營業稅法廢止法律案(高木益太郎君外二名提 第一讀會 出)

營業稅法廢止法律案
營業稅法ハ之ヲ廢止ス

附則
本法ハ大正五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(高木益太郎君登壇)
(拍手起ル)
○高木益太郎君 營業稅廢止ノ理由ハ屢、當壇上ニ於テ訴ヘタトコロデアリマスカラ、茲ニ三四分間大體デケテ申上グルニ止メテ置キタイデアリマス、所得稅ノ以外ニ國民ノ一部階級ノミニ負擔セシムル所ノ營業稅ハ、惡稅中ノ最大惡稅デアツテ、營業上損失ヲ被ツタ場合ニ於テモ、之ヲ負擔セシムルデアリマス、稅ハ收入ニ賦課スベキモノデアリノニ、收入ノナイ場合ニ於テ負擔セシムルコトノ惡稅デアリマスカラ、租稅ノ根本原則ニ反スルモノデアル、從ツテ立憲ノ今日、是ガ存在ヲ認ムベキモノデハナイ、又課稅標準及其徵收ノ方法モ共ニ煩瑣デアツテ、慘忍酷薄ヲ極メ、是ガ爲ニ營業上ノ秘密ヲ發イテ、商工業ヲシテ萎靡衰頹ヲセシムルコトノモノデアリマス、又廣ク商工業者以外ヲ見テモ、國民全體ノ生活費ヲハ過重セシムルコトノモノデアリマス、唯茲ニ財源ガドウ

デアアルカ、斯ウ云フ御論ガアルカモ存シマセヌカ、是ハ何レ國民黨ノ豫算委員ヲ代表スル人カラ、豫算討論ノ際ニ國民黨ノ大正五年度豫算ノ削減意見ヲ述ベル際ニ委シク

コトハ、諸君御承知ノ通りデゴザイマス、此時ニ於テハ此農民ノ苦痛ヲ救ヒ、此農民ノ負擔ヲ輕減致シマス上ニ於キマシテ、此地租ヲ輕減致シマスコトハ、最も適切ナ方法デア

ルト確信ヲスルノデゴザイマス、政府ニ於キマシテモ所謂民力休養ノ第一著手トシテ、國民ニ對スル公約ヲ實行セラル、トコロノ誠意ヲ表示セラレ、此案ノ實行ニ至ラムコトヲ同意サレムコトヲ望ムノデゴザイマス、殊ニ本年ハ、我國國家無上ノ御大典ヲ舉行サレマシタ時ニ方リマシテ、古來御即位ノ大禮ヲ舉ゲサセラル、場合ニ方リマシテ、普ク國民ニ賦役ヲ免除シテ、仁政ヲ施サル、トコロノ嘉例モ往々アルノデゴザイマスカラ、此場合ニ於テ一大仁政ヲ施サレテ、此農民ヲ苦痛ヨリ救フト云フコトニ至リマスルヤウニ、本案ノ實行ニ至ランコトヲ切望スル次第デゴザイマス、願クハ滿場ノ諸君ニ於キマシテモ、一致ヲ以テ御贊同下サレテ、本案ノ速ニ可決確定サル、コトニ至ランコトヲ希望致シマス(拍手起ル)

○福田又一君 本案ハ議長指名十八名ノ特別委員ニ付託シ、審議セシメラレムコトヲ望ミマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 福田君ノ動議ノ如ク、議長指名十八名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
○副議長(法學博士花井卓藏君) 其通り致シマス、日程第七、營業稅法廢止法律案第一讀會——高木益太郎君

第七 營業稅法廢止法律案(高木益太郎君外二名提 第一讀會 出)

申上アルノデアリマスガ、大體ニ於テ今日ノ政府ノ施設ノ上ニ、官僚主義形式主義ト云フモノガ甚クアツテ、根本ニ此政治ノ改良ヲ叫ベナケレバナラヌ必要ナルト云フコトハ何人モ認メテ居ルコトコロアル、既ニ根本的ニ此改革ヲスル必要ガアルト云フコトハ爭ハレヌ以上ハ、政府ノ歳出ガドノ位デアアルカト云フコトヲ見ルト云フト、昨日先輩ノ武蔵時敏君ガ大藏大臣トシテノ御演說ヲ伺フト、大正五年度ノ歳出ハ五億五千三百萬圓デアアルト云フコトヲ仰セニナツタデアリマス、併ナガラ吾々ハ此帝國議會ニ來テ、イツモ大藏大臣ノ説明ヲ聞イテ疑フノハ、此國家財政ノ大體ヲ話スト云フコトノ御說デアアルニモ拘ラズ、單ニ一般會計ノミヲ示シテ、特別會計ト云フモノニ就テ説明シテナイ、國民ノ出スト云フ點、國家ノ歳出ト云フ點カラ言ヘバ一般會計デアラウト、特別會計デアラウト、唯政府ノ出ス抽斗ガ違フデケデアツテ、國家ガ之ヲ費消スルト云フ點ニ於テハ同様デアアル、然ルニ大藏大臣ハ此五億五千三百萬ナドト云フ一般會計デケケ國民ニ知ラセテ、特別會計總額ヲ知ラセナイ、是ハ國民ノ誤解ヲ招ク基デアアル、日本ノ歳出ハ五億五千三百萬位デアラウト、專門家デナイ以上ハ、往々誤解ヲ招クノデアアル、ソコデ唯今大藏省ニ行ツテ、一般會計ト特別會計ト總額ハドノ位デアアルカト質問シタ所ガ、十二億四千八百三十四萬三千六百二十五圓デアアル、斯ウ云フ回答ニ接シタデス、日本ノヤウナ貧乏ノ國ガ、毎年々々十二億内外ノ金ト云フモノヲ出シテ居ルト云フコトハ疑ヒハナイ、勿論此内ニ一般會計ト重複スルモノガアルカラ、純歳出ハドノ位デアアルカト云フコトヲ聞イタ所ガ、大藏省ハマダツレニ對シテハ答辯ガ出來ナイ、何レ調査ノ上差上ゲマセウト云フノデアアル、吾々ノ方デモ算盤ヲ執ツテ一般會計特別會計ヲ合セテ見タイト思ツテ居ルガ、昨日豫算案ヲ貰ツタデケデアリマスカラ、此合計額ヲ調べル邊ガナイノデアリマス、何レ此額ト云フモノハ、九億内外デアアルト云フコトハ疑ヒナイト思フ、國民黨ガ大正四年度ノ豫算ニ就テ一般會計特別會計ヲ勘定シテ見ルト云フト、純歳出ガ九億圓以上ニナツテ居ルノデアアル、本年度ニ於テモ多分八億九千萬カ、或ハ九億萬圓位デアアラウト考ヘル、サウスレバ先ヅ大體カラ見渡シテ今日ノ政治ノヤリ方ト云フモノハ、何レ見テモ形式主義官僚主義バカリデアアル本當ニ此政府ノ、九億萬圓ノ歳出ガ國民全體ノ爲ニナツテ居ルカドデアアルカ、勿論吾々ト雖モ眞ニ國家ノ發展ノ爲ニナルト云フコトデアレバ、幾ラ租稅ヲ負擔シテモ決シテ之ヲ辭ム譯デハナイ、併ナガラ若シ形式ニ走ツタリ、官僚主義ニ走ツテ、無駄ナコトガ澤山アルト云フコトデアラナラバ、之ニ向ツテハ十分ニ改正ヲ望マナケレバナラヌト云フコトハ當然ナル次第デアアル、ソコデ此九億ノ歳出ノ中ニ於テ一割無駄ナコトヲ廢スルト云フト、ドノ位ノ金ガ出ルカト云ヘバ、九千萬圓出ル、然ラバ二十分ノ一ハ幾ラデアアルカト云ヘバ三千万圓、三千万ノ金ガアレバ營業稅ノ全廢モ出來ル、通行稅ノ廢止モ出來ル、地租ノ輕減モ出來ル、ソレガ出來ルカ出來ヌカト云フ、算數ニ就テノ細イ所ハ何レ豫算委員會ノ總會又ハ分科ノ會デ論ズルノデアアルガ、大體ドウデアアルカ、今日ノ政治ノ組織ハ根本的改良シナケレバナラヌト云フ方針ヲ持ツタナラバ、二十分ノ一ノ儉約ガ出來ルカ出來ヌカト云フ問題ニナルノデアアル、サウシテ之ヲ無駄ニスルノデナイ、國本ヲ培養シ民力ヲ休養シテ、大ニ此國家經濟ヲ養フト云フ方面ニ向ケヤウト云フノデアリマスカラ、即チ一粒万倍ノ策デアアル、此策ヲ唯陸軍ノ擴張ヲ夢ミテ此陸軍海軍ノ費用ノ土臺ヲ造ル民力ヲナセ休養セヌカト云フコトガ、吾々ガ政府ニ對シテ要

求スルトコロノ眼目デアアル、先刻モ陸軍省ノ參政官ガ出ラレテ説明サレタガ、唯陸軍ヤ海軍ノ比較バカリヲ見テ、國民ノ負擔力ノ國際的關係ヲ一向調ベテ居ラス、今日ハ總テ此世界ノ大勢カラ割出シテ來ナケレバナラヌ、負擔力ノ國際關係ハドウデアアルカ、今國ノ存亡ヲ賭シテ戰フ所ノ英吉利ガ、アノ戰ヲヤツテ居ルニ拘ラズ、營業稅ヲ課シテ居ルカ、成程所得稅ハ増シマシタ、御承知ノ通り所得稅ハ半額以上モ増額シタケレドモ、是ハ所得ガアツテ取ルノデアアルカラ當然デアアル、營業稅ハ所得ガ無クモ取ルノデアアル、英吉利ノ彼ノ富シタル國ニ於テ其國家存亡ヲ爭フ場合ニ於テスラ營業稅ナルモノハ、英吉利ニ於テハ課シテハ居ラヌデアリマス、然ラバ敵ノ獨逸ノ普魯西ハドウデアアルカト云フト、國稅ノ營業稅ハ今日ニ於テモ無イデアリマス、彼ノ聯合國ニ攻メラレテ今日倒レルカ明日倒レルカト云フトコロノ普魯西ニ於テスラ、國稅ノ營業稅ガ無イデアリマス、然ルニ我國ハドウデアアルカ、非常特別稅ヲ永久稅ニセラレテ、サウシテ國家興隆ノ基礎タルコロノ商工業者ガ非常ナル苦ミヲヤツテ居ルト云フコトハ、如何ニモ同情ニ値スルコトデアアルト吾々ハ信ズルノデアリマス、又佛蘭西ハドウデアアルカ、佛蘭西ハ所得稅ト云フモノハ無イデアリマス、然ルニ日本ノ國際的ノ研究ヲシナイデ、サウシテ國民ノ負擔バカリ重クシテ誅求バカリ重ナラレルト云フコトデアラナラバ、ドウシテ日本ノ商業工業ノ世界的ニ發展スルコトガ出來ルデアリマセウカ、是ハ私ハ疑ハナイ事柄デアアルト信ズルノデアリマス、ソコデ今日ハ海關ニ代アリマス、前迄ノ議會デゴザイマスレバ大藏大臣ハ官僚出身ノ大臣デアツタ、而モ此官僚出身ノ大臣ハ大藏省ノ屬僚時代ニ、自分デ營業稅法ヲ立案シテ、サウシテ此目前ノ戰爭時代以來、今日マデ此營業稅法ニ依ツテ國民カラ稅ヲ誅求シテ來タ人ナデアアル、其人ニ向ツテ前非後悔シテ此營業稅ヲ廢止シロト云フコトヲ迫ルノハ、些カ難キヲ責ムルヤウナ感ヲ持ツ、然ルニ今日ノ大藏大臣ハサウ云フヤウナル歷史的ノ事情ハ全く無イ——無イノミナラス、曾テ我國民黨ニ在リテ吾々ニ向ツテ營業稅ノ廢止ハ民力休養ノタメニ必要デアアルト云フコトヲ唱ヘラレタ、而モ此壇上ニ於テ、第三十一議會ニ武富時敏君ガ營業稅廢止提案ヲ説明者トシテ演說セラレタ、何ト仰セニナツテ居ルカト云フノニ、大正三年度カラ直チニ營業稅ノ二千六百萬圓ト通行稅ノ四百有餘萬圓ヲ廢止シテ、政府ノ財政ニ於テ何等差支ナイト云フコトヲ吾々ハ確信スルノデアリマス、ト斯ウ議事錄ニ時筆大書セラレテ居ルガ如クニ、此壇上ニ於テ仰シヤツタ言葉ト云フモノハ七千万ノ國民悉ク記憶シテ居ルノデアリマス(拍手起ル)ソレ故ニ吾々ガ丁度此壇上デ此ノ案ニ就テ申上グルノハ、武富君ヲ代表シテ、サウシテ此營業稅廢止ノ提案ノ理由ヲ説明スルノト同様ナ次第デアアルト信ズル、唯今藤井君ノ仰セノ如ク、本年ハ十一月十日ヲ以テ我々天皇陛下ハ曠古未曾有ノ御即位ノ御盛典ヲ舉ゲサセ給ヒシデアリマス、洵ニ億兆欽仰シテ、日夜赤誠ヲ捧ゲテ奉祝シテ居ルノデアリマス、獄中ニ居ルトコロノ罪人スラ恩赦ノ仁惠ヲ蒙ツテ居ルノデアリマス、此陛下ノ御仁惠ガ四海ニ光被シテ洵ニ國民全體ガ悅シテ居ル場合ニ於テ、帝國議會ハ良民ニ對シテ、而モ國家興隆ノ基礎タル活動スル國民ニ對シテ、此ノ千載一遇ノ時機ニ於テ多年國民ノ苦痛ニ泣ケル最大惡稅ヲ廢止スルト云フコトハ陛下御仁惠ノ御趣意ニモ適ヒ奉ルトコロノ國家ニ忠ナル所以デアアルト信ズルノデアリマスカラ、此處ニ此案ヲ提出シテ諸君ノ協贊ヲ求ムル次第デアリマス(拍手起ル)

○福田又一君 本案ヲ第六日程ノ法律案ト同一特別委員ニ付託シテ、審議セシメラレムコトヲ望ミマス

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(法學博士花井卓藏君) 御異議ガナイト認メマス、福田君ノ動議ノ如ク決シマス——御諮リヲ致シマスガ、劈頭ニ於テ御諮リヲ致シマスル件デゴザイマスルガ、國務大臣ノ出席セラル、マデ日程ノ議事ヲ進メルト云フコトニ致シマスアリマス、唯今出席ニナリマシテゴザイマス、然ルニ本日ノ日程餘ストコロ一デアリマス、序ニ之ヲ終了ラシテ、國務大臣演說ノ質疑ノ續キニ取掛ルト云フコトニ致シマスナラバ如何デゴザイマセウ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(法學博士花井卓藏君) 然ラバ其通り致スコトニ致シマス——日程第八、東方調査局設置ニ關スル建議案、之ヲ議題ニ供シマス、伊東知也君

第八 東方調査局設置ニ關スル建議案(伊東知也君提出)

東方調査局設置ニ關スル建議案

東方調査局設置ニ關スル建議案

東方ノ國情調査ニ關スル特別機關ヲ設ケ在朝在野ヲ問ハス廣ク其ノ事情ニ精通セル人士ヲ集メ完全ナル調査機關ヲ設ケ以テ我カ國對東方政策ノ根柢ヲ確立セムコトヲ望ム

右建議ス

〔伊東知也君登壇〕

〔拍手起ル〕

○伊東知也君 本案ハ度々議場ニ出シマシタ議案デアリマシテ、常ニ滿場一致ヲ以テ通過シタ案デゴザイマス、今更詳シク此處ニ其理由ヲ説明スルノ必要ハ認メマセウ、併ナガラ諸君モ御承知ノ通り、現在歐洲ノ大亂ガ盛ニアツテ、此治マツタ結果ハ東方ニ波及スルトコロノ影響ハ如何ナルモノアルカト云フコトヲ御考ヲ願ヒタイ、恐ラクハ獨逸デアレ聯合軍ノ方デアレ、歐洲ニ於ケルトコロノ疲弊ヲ必ズ東方ニ於テ之ヲ補ハント企テラルニ相違ナイデアリマス、ドウシテモ之ニ對シテ我日本帝國ハ非常ナル努力ニ、非常ナル研究ト、非常ナル用意ヲ以テ準備シナクテハナラヌデアリマス、然ルニ如何デゴザイマセウ、諸君、私ハ質問演說ニ於テ詳シク述べマスルガ、私ノ觀マストコロニ依リマスルト云フト、昨年以來對支外交ノ如キモノハ悉ク全然失敗ナリト斷言スルヲ憚カラヌデアリマス、是レ恐ラクハヤハリ其調査機關ノ不完不備ヨリシテ來ストコロノモノデアラウト思フデアアル、諸君、強チ私ハ人身攻撃ヲシテ外務省攻撃ヲスルノデアリマセウガ、私共永年支那ニ行ツテ居リマシタ者ノ眼カラ見マスル、實ニ支那ニ於ケルトコロノ領事館ノ御調査トカ、外務省ノ御調査ノ如キモノハ、實ニ殆ド一顧ノ價值モナイト云フコトヲ斷言スルニ憚ラヌデアリマス、寧ロ朝野幾多ノ秀才、幾多ノ人物ヲ網羅シテ、之ヲ調査スベキトコロノ機關ヲ設置シテ、今ヨリシテ準備シナクテナラバ、茲ニ五年十年ノ後ニ實ニ國家存亡ノ危機ニ瀕スルトコトナリハシナイカト云フコトヲ私ハ危々者デアリマス、諸君、現ニ此二三日前ニ起ツタトコロノ上海ノ暴動ノ如キモノ、外務省ハドウ云フ報告ヲサレテ居ルカ

知ラスガ、新聞紙ノ報告ニ依ルト、重大ナリトカ非常ナ大事件ガ勃發シタカノ如ク傳ハツテ居ルケレドモ、私ハ電報ヲ打ツテ向フニ居ル所ノ友人ニ調ベサシタ所ガ、オ茶番ノミ、尼ノ河童ノミト云フ返電ガ來タ、世間ニ傳ハツテ居ル所ノモノト違ツテ、實際ノ事實ハ此通リデアルト私ハ信ズルデアリマス、私ハ私ノ友人ノ返電ヲ信ズルデアリマス、外務省ハ如何ナル御報告ヲサレタカ知ラスガ、支那ニ重大事件ガ起ツタトスレバ、此間ノ警告ノ影響ガアツタヤウデ、大變御都合ガ好イデアリマセウガ、ナカノ、サウハ參ラヌデアリマス、實際ノ事情ヲモット適切ニ、モット明カニ、モット詳シク調べテ、而シテ新聞ニ報道シ、國民一般ニ知ラシテ、大決心ヲ以テ今後歐洲大亂ノ後ニ來ルベキ、東方ニ澎湃トシテ來ル所ノ彼等ノ勢力ニ對抗スル準備ヲシナケレバナラヌデアリマス、是ハ是マデ幾度カ當議會ニ於テ滿場一致ヲ以テ通過サレマシタガ、政府ハ金ガ無イト云フ、唯口實論デアアル、奈何ニセン、金ガ無イト云フコトデゴマカシテ、何遍モ何遍モ、此建議ガ、滿場一致ヲ以テ通過タ建議案ヲ握リツツシテシマウデアリマス、此ノ現在ノ内閣諸公ハ其ノ當時皆贊成セラレテ、私ノ趣意ヲ贊成シテ滿場一致ノ中ニ加ハタ人デアルカラ、今度ハソナナ事ハナサルマイト思フガ、僅カ私共ノ提案、即チ井出三郎君ト私ノ贊成シテ拵ヘタ案ハ、差當リ僅カ金額ガ十萬圓デ宜シ、ツレバカリノ目腐金ガ出來ナイ、ツレヨリモ私一個人ノ考デアハ、參政官ナドヲ置クヨリモ其方ニ出シテ貰ヒタイ、ホンノ僅カバカリノ金デアルカラ、是ハ是非トモ本年ハ内閣諸公ニ於テモ御採用ヲ願フ、諸君ニ於テモ固ヨリ御異議ノアル答ハナイガ、今度實行シナクテナラバ、諸君ト共ニ内閣ヲ此問題ヲ以テ彈劾スル位ノ御決心ヲ以テ、私ニ御贊成アラント希望シマス

○福田又一君 本案ヲ議長指名九名ノ特別委員ニ付託審議セシメラレシコトヲ望ミマス

○副議長(法學博士花井卓藏君) 福田君ノ動議ニ御異議ハアリマセウカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者起ル〕

○副議長(法學博士花井卓藏君) 御異議無イト認メマス、議長指名九名ノ委員ニ付託スルトコトニ決シマス、日程ノ總テヲ終リマシタ、御諮リヲ致シマスル趣旨ニ基キマシテ、國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ノ續ヲ進メマス——唯今議長ト代リマス

〔副議長法學博士花井卓藏君議長席ヲ退キ議長島田三郎君議長席ニ著ク〕
○議長(島田三郎君) 此場合御報告ヲ致シマス、昨日本院ノ決議ニナリマシタ通り皇子御降誕ノ御祝賀ヲ本日十一時宮内大臣ヲ經テ申上ゲマシタ、此段御報告ヲ致シマス——是ヨリ國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ニ移リマス——小林丑三郎君

國務大臣ノ演說ニ對スル質疑

前會ノ續

〔法學博士小林丑三郎君登壇〕

○法學博士小林丑三郎君 私ハ大藏大臣ダケニ對シテ説明ヲ煩スデアリマス——質問ヲ申スデアリマス、大藏大臣ノ豫算ニ關スル説明ハ、豫算及貿易金融經濟ノ方面ニ涉ツテ居リマス、ツレ故ニ私ノ御尋ヲ致シマスルモノモ、先ヅ豫算カラ始メマシテ金融ノ方面マデ含ミタイト思ヒマス、元來豫算ハ言フマデモナク財政計畫ノ一節ニ當ルモノト考ヘマスル、殊ニ今日ノ我國ノ時局カラ見マスルト云フト、此豫算ハ政府ノ時局ニ對ス

ル、有ニ準備計畫ガ財政ニ關係スル部分ノモハ現レテ居ルベキモノト考ヘマス、故ニ大正五年度ノ豫算ハ、時局ノ今日ニ取テハ、從來ノ在來ノ豫算ヨリハモウ一層重大ナル意義ヲ有テ居ルモノト私ハ確信致シマス、先ヅ歳入ノ方面カラ見テ參リマシテ、總括的ノ觀察ヲ致シマスルニ云フ、所謂總額ガ五億五千三百萬圓ト云フコトニナッテ居ル、其中ニ普通ノ歳入ハ澤山アリマスケレドモ、ソレヲ補フ所ノ補缺財源ガ載テ居リマス、其補缺財源ノ中ニ五年度ノ豫算ニ於キマシテハ、公債募集金ト云フモノガ入ッテ居リマセヌ、勿論臺灣ノ事業公債ノ補充金ト云フモノヲ百五十萬圓、一般會計豫算ニ計上サレテ居リマスガ、是ハ從來カラノ既定事業ノ引續ト云フデアリマセウカ、ソレヲ除キマスト云フト——其點ヲ除キマスト云フモノハ載テ居リマセヌ、極メテ綺麗ニ出來テ居リマス、併シ其補缺財源ノ中ニハ例年見マストコロノ前年度剩餘金、是ガ千何十萬圓ト云フモノガ載テ居リマス、其外軍需品ノ補缺財源ト云フモノカラ二九十九萬圓ト云フモノガ載テ居リマシテ、廣イ意味ニ於ケル前年度剩餘金トシテ、兩方合算デ一千二百萬何ガシト云フ補缺財源ガ載テ居リマス、是ハ例年ニアルコトデアリマスルカラ敢テ不思議トハ吾ハ思ハヌデアリマス、併ナガラ此剩餘金ノ外ニ——其豫算ニ計上致シマシタ剩餘金ノ外ニ、尙殘テ居ルトコロノ剩餘金ガアルカト申シマスル、大正二年分剩餘金計算トシテ載セラレテ居ル、他ノ部面ニ説明セラレテ居ルモノカラ申シマスルニ云フ、尙千七百萬何ガシタルヤウデアリマス、併シ是レトテモ大正四年度五年度追加豫算——大正四年度ノ歳入不足ニ對スル收入減ニ對スル補缺ノ費用及ビ臨時軍事費ト稱スルモノニ振向ケル部分ヲ差引キマスル、僅ニ四萬六千圓、此數ハ違ッテ居ルカ知レマセヌガ、免ニ角十萬圓内外ノ前年度剩餘金ガ殖ヘルノミト云フコトニ私ハ看取致シマシタ、前年度剩餘金ハ詰リ前期繰越金デアリマス、一朝水害トカ何トカ云フコトガアリマシテモ、此必要ナル臨時財源——多少ノ繰越金ガ殘ッテ居ラヌト云フコトハイロ／＼工夫モ——財政上ノ手段ハ無イデアリマセヌ、ケレドモ餘リ心細カラザル財政狀態トハ見ラヌト思ヒマス、軍需品補缺財源二百九十九萬圓ノ挿入ハ是ハ兵器ノ——軍需品ノ賣上代金ノ流用デアリマシテ、金額ガ少ウゴザイマスカラシテ敢テ免ヤ角言フ程ノモノデアリマセヌケレドモ、是亦餘リ面白カラザル財源ト見テ宜イカト思ヒマス、モウ一ツハ是ハ補缺財源トハナッテ居リマセヌヤウデスケレドモ、臺灣ノ國稅ノ收入ヲ一般會計ノ中ニ取入レテ、ソレヲ又全部臺灣ニ與ヘルコトニナッテ居リマスケレドモ、其中ヲ能ク計算シテ見マスル、未ダ私ニハ分リマセヌガ四五萬圓バカリノ國稅收入ヲ母國財政ノ補缺ニ——行政整理又ハ母國財政ノ費用ノ爲ニ繰入レテ居ルト云フ形跡ガ見エルデアリマス、此點ハ間違ッテ居ルカ知レマセヌカラ、若シ間違ッテ居リマシタ御直シ願ヒマス、併シ是ハ殖民政策上私ハ餘程重大ナ問題デアラウト思フ、殖民地ニ屬スベキ收入ノ一部ヲ以テ、母國財政ノ一部ニ充テルト云フコトハ、是ハ殖民地財政策ノ上カラ云ッテ餘程重大ノ問題ト思ヒマス、他日ノ機會ヲ待ッテ申上ゲルコトガアルカモ知レマセヌ、要スルニ斯カル財源ヲ充當シマシテ勿論公債募集ト云フコトハシテナイ、ソレ歳出ノ方面ハドウナル、之ヲ見マスルト斯カル財政上デ——斯カル財源ヲ補缺ニ用井テ、而シテ歳出ハドレダケノ歳出ヲヤッテ居ルカ、之ヲ見テ

參リマスルト稍／＼冗長ニ失スル虞ガアツテ、甚ダ恐縮デアリマスケレドモ、私ノ質問ノ後ニ算ヘマスル事項ノ是ガ前提ニナリマスルノデ、申上ゲナケレバナラヌト思ウテ居リマス、歳出額ハ申スマデモナク歳入額ト同一デ五億五千三百萬圓デアリマス、併ナガラ御承知ノ如クニ何年トナク古イ豫算ヲ襲踏シ來ッタデアリマスカラシテ、普通ノ豫算ニ對シマシテモ餘程新事業ガ——新規ノ計畫ガ起ルベキ狀態ニナッテ居ルニ加ヘテ、今日東洋ニ於ケル帝國ノ時局準備ト云フコトヲ考ヘマシタナラバ、餘程顯著ナルコロノ新事業ト云フモノガ現レテ居ルカト思ウテ歳出ノ方面ヲ見マスルニ、勿論新事業ト稱スベキモノガアリマス、之ニ付テハ大藏大臣ノ御演說ニモ緊急差措キ難キモノダケヲ載セテ、諸種ノ必要ナル費用ハ歳入ガ伴ハヌタメニ、遂ニヤリ得ナカッタト云フコトガ、言葉ハ少シ違ウカモ知レマセヌケレドモ大體サウ云フヤウナ趣旨ニ於テ御述ニナッテ居リマス、而シテ其新事業トシテ現ハレテ居ルトコロノモノヲ見マスル、新事業ナルモノ、解釋ニ依ッテ大小區々デアリマスカラ、私ノ見込ミマスルノガ十分當ッテ居ルトハ申サレマセヌケレドモ、免ニ角私ハ此豫算書ニ就テ大體大キイ數字ダケヲ集メテ見マシタキニ、千八百七十萬圓ト云フ數ガ出マシタガ、或ハ二千萬圓位ニナッテ居ルカモ知レマセヌ、何カ新聞カ何カ大藏大臣ガ二千五百萬圓ト云フヤウニ仰シヤッタヤウニモ記憶シテ居リマスガ、是ハ其方ガ正確デアリマセウ、私ハ唯大キイ數ダケヲ採リマシテ、千八百七十萬圓ト云フ數ヲ得タデアリマス、ソレデ其中デ——私ノ計算ヲシマシタ千八百七十萬圓ノ中デ、千百幾ラト云フモノハ陸海軍省ノ新事業費ニ當ッテ居ル、他ノ各省ノモノガ七百何十萬圓ト云フモノニナッテ居リマス、是モ二千五百萬圓ノ數字デ申シマシタナラバ、兩方トモモウ少シダ、多クナルカモ分リマセヌ、唯割合ヲ申上ゲテ見ル爲メニ、主ナルモノダケヲ採ッテ申上ゲンタルデアリマス、而シテ各省ノ新事業費七百何十萬圓ノ中デ、其中ニモ隨分有リ來リノ行政費增加ガアリマス、例ハ裁判所ノ移轉費デアルトカ、或ハ何検査費試驗費ト云フヤウナモノガ随分アリマシテ、此殖産開發上ノ新事業費ニ至リマシテハ、何レ位アルカ——七百萬圓ノ中デ何レ位アルカト見マスル、是ハ大藏大臣ノ昨日ノ御演說ニモアリマシタ二百八十五萬圓ト云フコトガ御演說ノ中ニアツタヤウニ記憶シテ居リマス、其中ハ滿蒙開發ニ伴フ所ノ費用、内地産業指導獎勵ニ關スル費用——新事業費、ソレカラ交通機關ノ整備ニ關スル新事業費ト云フヤウナ風ナ譯ニナッテ居リマス、ソレガ三百八十五萬圓ト云フコトデアリマス、ソコデ滿蒙開發ノ經費ニ伴フモノハ——滿蒙開發ニ伴フ政府ノ新事業費トシテ、何ンデアアルカト見マスル、場所ハ今記憶シテ居リマセヌガ、何シテモ五ツノ領事分館ノ設置デアリマス、是ガ臨時費經常費トモ混ゼテ二十一萬五千圓ト云フコトデアル（「本論ニ入ルベシ」「謹聽々々」ト呼フ者アリ）ソレカラ内地産業ノ指導獎勵ト謂ツベキ新事業費ト云フモノハ、私ハ主ナルモノヲ抜イテ見タデアリマスガ、種羊飼育ニ飼育二萬九千圓、米麥品種改良八萬四千圓、工業試驗所擴張費九萬七千圓、染料及火藥原料製造獎勵費六萬二千圓、此外ニ目立ツモノハ電話擴張費ノ増加百五十萬圓、造船獎勵費ノ増加百五十萬圓、勿論マダ此外ニ追加豫算モ御出シシタルト云フコトデアルカラ、ソレヲ能ク見マシタ上デナケレバ、何トモ申上ゲヤウハ無イデアリマスガ、私ハ今日ノ歐洲ノ

兵力戰が經濟戰ニ移テ來ル此狀況カラ見マシテ、東洋ニ於ケル我國が千載一遇ノ好機トシテ活躍スベキ最モ必要ナル時機ニ當リ、其ノ大正五年ノ豫算が是レニ對シテ餘リ設備ニ遺憾ヲ——準備計畫ニ遺憾ノ點無キヤト云フコトヲ疑フノデアルノデアリマス（「ヒヤ／＼」ト呼フ者アリ）大正五年度ノ豫算タツタ一時ノ話デアルト云フ風ニ御考ニナル御方ガアルカモ分カリマセヌケレドモ、此大正五年度ノ豫算ハ、私ガ言フマデモナク再來年ノ六月マデハ行ハル豫算デアル、仕拂命令ノ發行期限マデ——言フマデモアリマセヌケレドモ、數ヘマスルト再來年ノ六月マデハ行ハル豫算デアル、其間ニ起リ來ルベキ變化スベキ事情ト云フモノヲ見テ、大正五年度ノ豫算ト云フモノハ、調製セナケレバ私ハナラヌモノト確信シテ居ルデアリマス、再來年即チ大正六年ノ少ナクトモ三月末日マデノ事件計畫ト云フモノヲ豫見シテ立ツル豫算トシテハ、モツト顯著ナル所ノ御施設ガ無クテハナラヌノデアリカト思フデアリマス（「固ヨリ」ト呼フ者アリ）一々申上ケルマデモ無キ、原料品産業ノ獎勵ノ如キ、滿蒙利權ノ利用ノ如キ、例ヘバ滿蒙ノ鐵道鑛山ノ開設、道路港灣ノ修築、郵便電信局ノ設置、牧畜工業等ノ保護費用、其他東南洋印度等ニ對スル貿易機關ノ増設ト云フヤウナ事モ、或ハ直接ニ、或ハ保護ニ依ッテアラナケレバナラヌト云フ事ガ、餘リ遠カラザル時期ニ於テ必要デアルト私ハ思フデアリマス、是ニ對シマス、我ガ此大正五年度ノ豫算ノ財源ト云フモノガ、甚ダ乏シキヲ感ズルト云フコトヲ疑ハヌデアリマス、併シ此原因ハ大藏大臣モ言ヘテ居ル如クニ、租稅ガ歐洲大亂時局ノ影響ヲ受ケテ歲入ガ減少シテ居ル、歲入ノ減少ハ全部戰亂ノ結果トハ申サレマスモ、免ニ角歲入ガ著シク減ジテ居ルト云フコトハ事實デアリマス、總額ニ於——併シ其主ナル原因ハ關稅收入ノ激減ト云フコトガ原因ラシク——他ノ租稅ハ左程デモナイヤウニ思フデアリマス、通例ノ年ノ經常歲入ガ五億五千何ガシアル、之ニ對シテ大正五年度ノ豫算ニヨル經常歲入ハ五億二千三百萬圓デアリマスカラ、先ヅ一千五百萬圓ト云フモノハ歲入減ヲナシテ居ルモノト見テ宜カラウト思ヒマス、而シテ關稅ノ收入ガ大正二年度ノヤウナ異數ノ年ヲ別ト致シマスレバ、先ヅ五千五百萬圓——五六百萬圓ト云フモノガ關稅收入ノ普通デアラウト思ハレマス、ツレニ對シテ三千二百萬圓ト云フ豫算ニナツテ居リマスカラシテ、茲ニ二千三百萬圓カ五百萬圓、所謂二千三百萬圓ノ關稅ガ減ジテ居ルト云フコトニナツテ居ル、之ヲ見マスルト歲入ノ變化ト云フモノハ、主トシテ殆ド全部關稅カラ來テ居ルト云フコトハ言ヘルデアリマス、此關稅ト云フモノハ御承知ノ通り、是レハ殖産ルガ宜イカ減ルノガ宜イカト申シマス、餘リ關稅收入ノ殖産ルト云フコトハ、吾共ノ方デハ能ク感シテ居リマス、關稅收入ノ殖産ルト云フコトハ國ノ産業ト云フモノガ、必ラズシモ繁盛ヲ來スト云フモノデハナクシテ、成ルベク關稅收入ハ餘リ財政上ノ的ニスベキモノデハナイヤウニ考ヘテ居リマス、唯是レト反シテ他ノ租稅ニ就テハ、餘程攻究ヲ要スベキモノト思ヒマス、此歲入ノ必要ナル費用ニ充ツルニ對シテ、歲入ガ思ハシクナイ原因ガ關稅收入ノ減收ト、所謂公債募債金ト云フモノ、無イノ原因シテ居ルモノト私ハ思フ、故ニ今後ハ勿論、今日カラデモ此財政ノ改善ニ向ッテ攻究ヲ盡シマセヌケレバナラヌヤウニ考ヘマス、畢竟スルニ財政ノ彈力ガ窮迫シテ居ルデアリマスカラシテ、此財

政ノ改善ト云フコトガ、今後ノ國運進展ニ向ッテ最モ必要デアルト私ハ考ヘマス（「ヒヤ／＼」ト拍手スル者アリ）此ニ於テ私ハ大藏大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイノハ、財源ノ改善ニ政府ハ著手シツ、アラル、ヤ如何、若シ御著手申テアルナラバ之レヲ承リタイト云フコトガ質問ノ一點デアリマス、順序ガ揃ヒマセヌデ恐縮シマスケレドモ、前ノ今日ノ政府ハ此豫算ヲ以テシテ時局ノ對策ニ遺憾無シトセラル、ヤ如何、第二ガ今ノ財源ノ改善ニ就テ政府ハ著手シツ、アラル如何、御著手ニナツテ居リマスナラバ其事ヲ承リタイノデアリマス、尙具體的ニ如何ニ其答ガアリマスカ、ツレニ拘ラズ他ノ問題ヲ申上ゲテ御意見ヲ伺ハウト思ヒマス、從テ第二ニ對シテ稅制ノ改善ニ關スル御意見如何、是レ財源ノ改善ノ一ト私ハ見ラレモト思ヒマス、今日ノ稅制ヲ如何ニ改善シ、サウシテ此時局ノ要求ニ應ズルヤウナ稅狀態ヲ改善シテ行クト云フ必要ハ御認メニナルヤ否ヤ、稅制ノ改善ハ勿論、廢止減ズルバカリデハナイ、惡稅ハ廢止重稅ハ輕減シ、是ト同時ニ適當ノ稅制整理ヲシテ、無理ヲセザル自然增收ノ生ズルヤウナ改正方法ト云フコトモ必要ナルト同時ニ、又其稅ハ新設スルモ可ナリ、要スルニ我國ノ今日ノ稅制ト云フモノヲ見ルニ、誠ニ國運ノ進歩ト伴ハナイ、動モスレバ減收ヲ來シ、又時々廢減說ト云フモノガ現ハレテ來テ、地租ノ如キ、營業稅ノ如キ、所得稅ノ如キ有ル租稅ガ減ズル一方ノ方ニ進シテ行ク傾キガアル、増ス方ノ方法ト云フモノハ殆ド無クナツテ居ル、是レガ今日マデノ有様デアリマス、是レハ私ハ今日ノ稅制課稅ノ方法ガ甚ダ惡イ爲メニ、モウ減ズルヨリ外ハ途ガナイ、増率ト云フヤウナコトハ非常ナ不公平ヲ、更ニ不公平ナラシムルト云フ點カラシテ出來ヌノデアリカ、故ニ稅制ノ改善ト云フコトヲ必要ト認メマスルガ、是ニ就テ政府ノ御考ヘ如何、殊ニ此問題ニ關聯シテ御演說中ニハ何モ見エテ居リマセヌデスガ、廢減稅ニ關スル政府ノ御意見如何、廢減稅ヲスルト云フコトハ、是ハ屢々政府ノ當局者ノ必ズスルト斷言シタコトモ、私ハ臨時議會、二十六議會等ニ於テ開イテ居ルデアリマス、其廢減稅ヲ如何ニナサルカ、之ニ對シテ廢減稅ハ政府ノ努メテヤラントスルトコロデアルケレドモ、戰爭ノ爲メニ收入ガ減少シタ、遂ニヤルコトガ出來ナクナツタ、ツレデアルケレドモ、將來餘裕アルトキニ於テ實行スルコトヲ疑ハヌ、斯ウ云フヤウニ私ハ聽及シテ居リマス、是ハ頗ル私ハムツカシイ、餘裕ノアルト云フコトニ付テハ餘程ムツカシイ意味ヲ持チマセヌカト思フ、戰ノ爲ニ減シマシタ收入ハ、私ノ先程申シマシタ所ニ依ッテ見マスレバ關稅收入デアアル、此關稅收入ノ二千三百萬圓減シタト云フコトハ、是ガ戻ッテ來テ今日ノ二千二百萬圓ノ上ニ、二千三百萬圓ノ關稅ガ復舊シテ五千五百萬圓ノ關稅收入ニナツタナラバ、廢減稅ヲ斷行スルト云フコトヲ意味セラル、ヤ否ヤ、一方ニ於テ收入ハ回復シテ來テモ、他方ニヤルベキ事業ガアルガ爲ニ餘裕ナシト云フコトニナツテ、出來ル財源モ出來ル財源モ他ノ方ニ使フト云フヤウナ必要ガ起ツテ來ハセヌカ、是等ニ對シテ大藏大臣ハ如何ナル御考ヲ有ツテ居ラル、カ、之ニ御答ヲ煩シタイト思フデアリマス、次ハ第四ニナリマス、公債策ノ改善、我今日ノ豫算ガ公債無シヤツテ居ラレマスガ、之ヲ公債ヲ起スコトニ爲サツテ、財政ノ改善ヲスルト云フコトハ、政府ハ御不同意デアルヤ否ヤ、ツレニ付テ御意見如何ト云フコトデアリマス、此意味ハ私ハ主トシテ、內國債ニ付テ御尋フスルデアリマス、申スマデモアリマセヌ外國債ハ非常ニ多クナツテ居リマス、之ニ反シテ內國債ハ左程ニ多クモナツテ居ラヌト見ラレノデアリマス、日露戰爭前ニ於テ四億五

千萬圓バカリアリマシタ内國債ガ、今日九億足ラズデアリマスカラ、大シタ増シテモナイヤ
ウニ思フ、ト云ウテ徒ニ内國債ト雖モ増加スルト云フコトヲ宜イトハ私ハ思ヒマセケレド
モ、其費途ガ生産的若クハ産業開發的ノ事業デアラナラバ之ニ向ッテ内國債ヲ募集ス
ルト云フ途ヲ御著ケニナルト云フコトハ、是ハ極ク必要ナコトデアルト思ヒマスル(ヒヤ
ヒヤ)ト呼フ者アリ。例ヘバ鐵道ノ資金ノ如キ、製鐵所擴張ノ資金ノ如キ、電話擴
張ノ資金ノ如キ、製鐵所及電話ノ如キハ最早多大ナ收益ヲ舉ゲ居リマシテ、製鐵
所ガ此像算ヲ見マスト云フト、千四百五十萬圓ノ利益金ヲ舉ゲルコトニナッテ居ル、
電話モ千萬圓位ノ利益金ヲ舉ゲルコトニナッテ居ル、斯ノ如キモノハ公債ニ依ッテ
擴張ヲ行テ行クト云フコトニシマシタナラバ、利益ヲ與ヘテ我財政ノ一財源ノ彈力
ト云フモノヲ増ス一助ニナルト云フコトヲ私ハ疑ハナイ(ヒヤ)ト呼フ者アリ。電話ノ
如キハ政府事業デアリナガラ、權利實買ガ行ハルコト云フ如キハ、如何ニ官業ト云フ
モノノ設備ガ缺乏——甚ダ需要ニ及バナイト云フコトヲ證明スルモノデアアル、官業トシ
テ私ハ體裁ノ惡イコトデアルト考ヘルデアリマス、其外此主義ト云フモノヲ植民地
ノ財政ニマデ及ボシテ戴キタイ、今日マデノ所デハ——今日ニ於キマシテハ朝鮮ノ事業費
ノ千五、六拾萬圓ト云フモノガ、一般會計ノ普通歲入デ貸付金ノ名ニ於テ支辨スルコト
ニナッテ居ル、是等モ鐵道資金ノ如ク朝鮮ノ事業——資本ヲ少シ投シテモ、ア、云フ新開
地ハ利益ガ益、多クナッテ行クノデ、直接ニ國庫ニ收益ヲ與ヘヌマデモ、植民の開發上内
地ノ開發ヨリハ最モ效力ノ大ナルモノデアアル、斯ウ云フモノニ向ッテ資本的ノ内國債——
投資的ノ内國債ヲ以テ、之ニ充ツルト云フコトハ極メ必要デアルト思ヒマス、是等ニ付
テ如何ナモノデアリマスカ、又預金部ノ狀況ヲ見マスルニ、三億五千萬圓バカリアル、預
金部ノ資産、其運用ノ中ニ——資金ノ運用ノ中ニ一億千萬圓ト云フ鐵道ノ貸付金
ガアル、斯ウ云フモノモ若シ鐵道公債ト云フヲ起シテ行クト云フコトデアラナラバ——
云フコトニナリマスカラバ、是ハ段々預金部ニ還シテ行ケル、サウシマスカラバ預金部ガ地方
各方面ニ向ッテノ低利ノ資金ト云フモノモ提供スルコトガ出來マスルシ、又今度ノ預金
部ノ金ヲ用井テ外國ノ大藏證券ヲ買フト云フヤウナコトモ、餘裕ガ出來ルト云フコトニナ
ルコトヲ疑ハヌデアリマスル、要スルニ一般會計及特別會計ノ方面ニ向ッテ、公債ヲ
募集シナイト云フヤウナ傾キヲ、少シ緩和ヲシテ募集スルコトニ御改善ニナルト云フコトハ
如何デアアルヤ否ヤ、今ハ金融ハ大緩漫ヲ來シテ居ルト云フコトハ、是ハ申上ゲルマデモナ
イト思フデアリマス、今日位「コール」ヤ割引ノ下ッテ居ル年ト云フモノハ殆ドナイ、非常
ナ緩漫ヲ來シテ居リマス、是ニ對シテ一時的デアアル變態デアルト云フ御考モアラウカト存
シマスルガ、金融ハ常ニ繁閑極リナキモノデアリマシテ、構ハナイデ置キマスレバ此大緩漫
ノ結果ハ有價證券ノ暴騰トナリ、物價ノ騰貴トナル、既ニモウ物價ノ騰貴ハ始ッテ來テ
居ル(拍手起ル)サウシテ其ノ結果ハ元ノ空阿彌ニナリ終ルデアアル、是ハモウ循環理法デ
爭ハレナイデアアル、大緩漫ノ次ニハ大逼迫ガ起ル、故ニ此ノ時ニ於テ此ノ募集スルコト云
フ策ハ、却テ屈強ナコトアハナカラシカト思ヒマスル、唯大藏大臣ハ短期ノ公債ハ比較的
易イケレドモ、長期ニナッテハナカノ容易デナイト云フ御考ヲ持ッテ居ラレヤウニ承知
致シテ居リマスカラ、ツレモ金高ニ依ルト私ハ思ヒマスル、長期ノモノニアリマシテモ、短期公
債ニ附スル位ノ條件ヲ以テ長期ノモノヲ起シマシテモ、金高ニ依リマシテ、例ヘバ二千萬圓

五千萬圓ト云フ金高ニ依リマシテハ、私ハ敢テ左程ニ困難デハナイカト云フ感シガスル
ノデアリマスル、是ハ私ガ何處マデモサウ考ヘテ戴カナケレバナラヌト云フノデハ無論アリマ
セヌガ、長期ノ公債ト雖モ、資本家ハ資金ヲ回收シヤウトスレバ、短期ノ公債デアリマス
ルト、取引所デアアルコトガ出來ヌケレドモ、長期ノ公債デアレバ賣ルコトガ出來マスカラ、
資金ノ回收ト云フコトモ、資本家トシテソナニ困難デハナイ、先ズ長期モ餘リ非常ナ
長期ト云フコトデアナイデアリマスレドモ、此點ハ大シタ差ヲ置ク必要ハナイカノヤウニ
考ヘラレルデアリマスル、要スルニ私ノ質問ノ要點ハ、公債ノ政策ニ就テ——是ハ語
弊ガアルカハ分リマセヌガ、今マデ言ヒ來ッテ非募集主義ト云フコトニ付テ少シ緩和ヲ
試ミラレデハドウデアアルカ、是ハ決シテ御趣旨ニハ反セヌ、當分ノ募集債セズト御言ヒナッ
タニ過ギヌデアリマシテ、今ヤ經濟ノ狀況カラ金融ノ狀況ハ變ッテ來タ今日ニ於テ、當
然此變更ヲスベキ時機ノ到來シタモノト申シテ一向差支ハナイヤウニ私ハ思ヒマスル、次
ハ第五ニナリマス、官業ノ整理ニ就テ——官業整理如何、是亦財政改善ノ一方法ト
見ラルベキモノデアルト思ヒマスル、官業ヲ整理シテ、今マデ一般會計ガ動トモスレバ累ヲ
受ケル、ツレバ整理スル、又他方ニ於テ民業ノ獎勵ニナル、財政ヲ資分民力ヲ増殖スル
所以デアアル、官業整理ト云フコトハ必要デアアルカラ——今後ノ財政ヲ考ヘマシテ必要デ
アルヤウニ考ヘマスル、之ニ付テ官業整理ノ今日マデイロノ調査會ナド出來テ居ラル
ルヤウデアリマス、其經過ハドウ云フ風ニナッテ居ラル、カト云フコトヲ承リタイト思ヒマス、
ツレカラ第六ハ外債償還ノコトデアリマス、外債償還ノ額ニ付テ、政府ハ之ヲ増加セシ
トスル御意見ハナイカ、減債基金——國債整理基金、特別會計法ト申シマスルモノハ、
是ハ戰役公債ノ整理ニ關スルガケノ重要ナ目的ヲ持ッテ居リマシタノデ、勿論ツレト同
時ニ他ノ公債ノ償還モ一緒ニ取扱ハレマシタケレドモ、法律ノ目指ス所ハ戰役公債デア
リマシタカラ、私ハ彼ノ法律ハ最早復舊スベキモノデアナイト思ヒマスルガ、併ナガラ其額ハ
今日最モ額ヲ殖ヤスベキ好時期デアリカト考ヘルデアリマスル、外債償還ニ付テ是マデ
憂ヒタ所ハ、第一ニ正貨ノ乏シイト云フコト、第二ニ國內ノ紙幣ヲ増發セシメテ、正
貨——償還スベキ正貨ヲ買フ爲ニ紙幣ヲ増加セシメテ——兌換券ト申シマスルカ、兌換券
ヲ増發セシメテ、内ニ非常ナ經濟攪亂ヲ來スト云フコトガ主ナル原因デアッタヤウニ思ヒ
マスル、併ナガラ今ヤ御承知ノ通り正貨ノ充實ハ最早持ッテ餘ス程正貨ガ増加致シマシ
テ、之ヲ使用スルニ當ッテ、別段外債償還ノ爲ニ通貨ヲ増發シナケレバナラヌト云フ譯デ
モナイ、今日ノ此豫算ニ依リマシテハ償還額ヲ二千萬圓ト御覽ノ通りニナッテ居リマス、
ツレヲ二千萬圓償還ヲ餘計ニ殖ヤスカ、三千万圓餘計ニ殖ヤスカ、正貨ノ都合ニ依ッ
テ成ルベク多ク此際御殖シニナルト云フコトハ、私ハ最モ時機ヲ得タルモノデアルト思フ、
償還正貨ヲ失フト後トテ困リハセヌカト云フヤウナ、イロノノ疑念モアルヤウニ思ヒマ
スルガ、私ハ此償還費ノ増加ニ付テハ三ツノ利益ガアルト思ヒマス、償還費ヲ増加致シ
テ置クト、若シ外國ノ證券ガ廉ク買ヘマスカラバ、此償還費ヲ以テ國內ニ於ケル預金部
又ハ日本銀行アタリノ内國債ヲ償還シテ、而シテ其金ヲ以テ外國ノ證券ヲ買入レテ置
クコトモ出來ル、此場合ニ於テハ正貨ハ減ラズシテ、正貨ノアルト同シコトデアアル、外國
證券正貨ハアルト同シコトデアッテ、而シテ公債ノ償還ト云フコトニモ準シテ居ルデアリ
マス、自國ノ外債ヲ拂ヒ切リニシナイ代リニ、他國ノ公債證券ヲツレダケ持ッテ居ルカラ、

其權利義務相殺シマスレバ、恰モ外國債ヲ償還シタノト同シ金融状態ニアラシメテ、而シテ外國券ヲ持テ居ル者ハ正貨ヲ持テ居ルコトモ見ラレノデアアル、是ガ公債償還費ヲ殖ヤス一ノ利益デアアルと思フ、若シコレガ思フヤウニ買ヘマセヌ時ハ、現實ニ外債ヲ償還スルコト云フコトモ出來ル、ソレハ無論ノ話、第二ニハ公債償還費ヲ殖ヤシテ置クト云フコト、期スベキコトデアアリマセヌケレドモ、若シ一朝事アル時ニ方ツテ、是ハ一朝時準備金ニ相當スルモノデアアルと思フ、公債償還費ヲ停止シテシマフ、停止シテシマフトスレバ、公債償還費ニ割當テラレテ居ル者ノ費用ハ急用ノ費用ニ使フコトガ出來ル、是等ノ點ハ公債償還費ヲ増加シテ置ク重大ナル是ハ必要ノ理由デアアルと思フ、故ニ此機ニ於テ政府ハモット公債償還額ヲ増加スル御意見ヲ有テ居ラル、ヤドウカト云フコトニ付テ、御質問ヲ申シテ置クデアリマス、勿論今日ハ變態デアアル、隨ツテサウヤタラニ輕舉ニ今金ガ殖エカラト云ツテ、直グ金ヲ使フ途ヲ處分シテシマツテ、後トテ取返シノ付カヌヤウナコトヲシテハナラヌ、ソレハ無論サウ云フコトデナクチヤナラヌと思ヒマス、併シ償還費ヲ増シタカラト云ツテモ、直グ正貨ガ無クナルト考ヘナクテモ宜イカト私ハ考ヘマス、ソレ故ニ償還費ヲ増加スルコト云フコトハ、決シテ輕舉デハナイ、否輕舉ト云フコトヲ申シマスルナラバ、實ハ政府ガ少シ輕舉デナカッタカト私ハ思フ（「ヒヤ」ト呼フ者アリ）米價調節ノ如キ、此公債ノ償還額ノ減少ノ如キハ、實ハ少シ此臨時議會ニ於テ御輕舉デハナカッタカト思フ、モウ少シ待テ居ラレタナラバ——待テ居ラレタナラバ、モウ私ハ此御質問ヲ申上ゲナクテモ宜カッタデアハナイカト思フ、去年ノ——イヤ今年ノ臨時議會ノ三十二議會ノ頃ニ於テハ、金融ハモウ緩慢デアッタ春以來緩慢デアッテ内國債ハ二千萬圓位ノ内國債ハ募集ハ出來タ（「其通り」ト呼フ者アリ）私ガ其當時ニ質問ヲシタコトガ、ドウシテモ内債ハ目下不能デアアルト云フコトデスウナッタデアアル、故ニ輕舉ト申シマスルナラバ、私ハソレハ一ツノ輕舉デハナイカト思フ（「ヒヤ」ト呼フ者アリ）故ニ其輕舉ヲ再ヒスベカラズ、故ニ此今ノ法律ト云フモノヲ餘リニ變ヘルト云フコトハ考物デアアルと思フ、タマリ二千萬圓以上ト云フコトニナツテ居ル、私ハ五千萬圓ヨリモツト多ク、是ハ今日ニ於テ償還ヲシナケレバナラヌ事情ガアルト私ハ思ッテ居ル、ソレハ政府ハ如何ニ考ヘラレカ、是ハ在外正貨ノ問題ト關聯致シマスルカラシテ、第七トシテ在外正貨ノ利用如何ト云フ問題ニ付テ何ツテ見タイト思ヒマス、在外正貨ハ分ツテ二種ニ見ルコトガ出來ルヤウデアアル、其一ツハ政府所有デアリマス、政府所有ノ在外正貨、他ノ一ツハ日本銀行所有ノ在外正貨ト見テ宜シカラウト思ヒマス（「簡單」ト呼フ者アリ）皆サンニ御話シテ居ルノデアハナイ、私ハ大臣ニ御質問ヲ致シテ居ルノデアリマス（「ヤルベシ」ト呼フ者アリ）而シテ政府所有ノ在外正貨ハ、是ハ全部トハ申サレヌカモ分リマセヌガ、大部分ハ軍需品ノ賣上代デアアルと思ヒマス、故ニ之ヲ取得スルニ當リマシテハ、正貨ノ——紙幣ノ膨脹ヲ促シマセヌ、之ニ反シテ日本銀行所有ノ此正貨——在外正貨ヲ取得シ蓄積シテ參リマスルニハ、ドウシテモ兌換券ノ膨脹ト云フモノガ伴フデアリマス、何トナレバ日本銀行ハ輸出形又ハ産金ヲ兌換券ヲ増發シテ買ハナケレバナラヌ、大體ニ於テ増發シテ買ハナケレバナラヌデアリマス（「在外正貨モ同ジ事デ」ト呼フ者アリ）故ニ一方ハ兌換券ノ増發ナシニ（「ノー」ト呼フ者アリ）他方ハ兌換券ノ増發ヲ免レナイ、政府ノ軍需品ヲ賣ル場合デアリマスレバ、別段兌換券ハ要ラヌデアリマセヌカ、其政府ノ賣上代ヲ外國金ヲ取ルコト、

何ノ兌換券ヲ増發ヲ促シマスカ、之ニ反シテ輸出形ヲ買フ、正金銀行ガ買フニシテモ、日本銀行ガ買ヒマシテモ、輸出形ヲ日本銀行ガ買フニハ、兌換券ヲ以テセネバ買ヘナイ、故ニ是ハ兌換券ヲ増發ヲ促スト云フコトニナルデアリマス、其結果此政府ノ方ガ在外正貨ヲ蓄積シテ行ク上ニハ、軍需品ガ賣レマスレバ賣レルダケ溜ツテ行クデアリマスカ、ソレ比較的の苦痛ヲ感ゼヌデアリマスガ、日本銀行若クハ正金銀行等ガ之ガ正貨ヲ蓄積シ、保有シ、保管ヲシテ維持シテ參リマスニハ、日本銀行ナルモノ、此一體正貨保有カト云フモノヲ考ヘナケレバナラヌと思フデアリマス、幾ラデモ日本銀行デアリテ溜メテ置ケルモノダト云フ想像ハ私ハ出來ナイ、此ニ於テ政府ニ御尋ラスルトコロハ、日本銀行ガモウ此兌換券ヲ増發シテ、輸出形若クハ産金ヲ買フカト云フモノガアルヤ否ヤ、日本銀行ノ購買カト云フモノガ限ラレテ居ルト見ルベキモノデアアルカドウカ、此點ニ付テ御答ガ得ラレバ、此問題ヲ極メルノニ私ハ最モ的確ナ材料ヲ得ル次第デアアルデアリマス、私思フニ既ニ日本銀行ハ制限外兌換券ヲ發行シテ、兌換券發行ニ全カヲ殆ト盡シテ居ルデアルカラ、此上ニ日本銀行ガ制限外ノ課税ノ五分以上ノ課税ヲ脊負ッテマデ此正貨ノ——輸出形及産金ヲ買込シテ、在外正貨ノ蓄積ヲ維持スルト云フコトハ私ハ餘程困難デアハナイカト思ヒマス、故ニ其點カラ見マスルト云フト、此外債償還額ノ如キハ、實ハ二千萬圓位増スト云フコトデハ、マダ私ハ足リナイカト思フ（「ヒヤ」ト呼フ者アリ）モウツト之ヲ増スト云フコトノ方針ニセンケレバナラヌ、ソレ政府ノ外債償還ノ爲ニ其正貨ト云フモノガ減レバ、又後トハ買ヘルノデアアルケレドモ、モウ一杯ニナツテ居ルナラバ、此上日本銀行正金銀行ト云フモノハ買ヘヤウガナイ、買ヘバ兌換券ハ非常ニ膨脹シテ來ル、而シテ輸出形ト云フモノハヤタラニ買ヘナクナツテ、輸出ヲ壓迫シナケレバナラヌ、手形ノ割引料ヲ高クシテ、成ベク手形ハ引受ケヌヤウニ抑制ヲ輸出貿易ノ上ニ加ヘヌケレバナラヌト云フコトニナルト、今ヤ生絲貿易ハ恢復ヲシ來ツタ場合ニ於テ、斯ノ如キ策ヲ取ルト云フコトニ若シナリマシタナラバ、是ハ單リ當ニ小ナル日本銀行ガケノ問題デケナイ、大ナル問題デアアルト確信スルデアリマス、此ノ如キ事ヨリ致シマシテ、在外正貨ノ利用ニ付テ私ノ御尋ネスルノハ、總メテ申シマスルト云フト、政府ハ政府所有ノ方ノ外債償還スル場合ニ、政府所有ノ方ノ兵器賣下代ト云フモノヲ利用セントセラルヤ、又此日銀所有、所謂我が經濟界ノ有シテ居ル所ノ其在外正貨ト云フモノヲ利用セラルヤ、現ニ三千万圓ト云フモノハ外債償還ニ用井テ居ルデアアル、ソレハドウ云フ風ニオヤリニナツテ居ルヤ、從ツテ若シ今後私ガ申上ゲルヤウニ假リニ増スト致シマスルナラバ、如何ナル方法——ドチラノ方法ニ依リマスルヤ、若シモ日銀所有ノ方ニ依ラル、ト云フコトデアアルナラバ、ソレト同時ニ一體日銀ノ所有ガ購買カト云フモノハ最早充滿シテ居ルカドウカ、サウ云フ點モ質問ノ一ト致シマス、實ハ貴族院ノ昨日ニ於ケル大藏大臣ノ御演說等モ見マシタ、貴族院ノ質問ニ對スル御答ヘ振ガ、ドウモ五千万圓ヲ復舊スルト云フヤウナ御考デアハナイカト想像サレルデアリマス、而シテ二千万圓ノ復舊ニ關シテハ、豫定ノ計畫ハ變更シナイ、他ノ方法ヲ以テ外債ノ減少ヲ計ルニ努ムルト云フヤウニ御答ニナツタヤウニ見エマス、其他ノ方法ト云フ如キハ如何ナル方法デアアルカ、政府——政府ト云フカ、大藏大臣ハ勿論、或ル少數ノ會ニ於テ新聞紙上ニ據リマス、五千万圓ヲ復舊スルト云フコトニ決

定シタル御話ヲナサタカコト云フコトが新聞ニ見エテ居リマス、是ハ少々不謹慎——若シコレが事實ナレバ餘程是ハ穩カナラヌコトナリカ、政府ガ公債ヲ募集スルカ還債スルカ云フ事ノ決定ヲ、之ヲ少數ノ處ニ御話シタルノハ甚ダ宜シクナリ、一般ニ知ラセル處ニ知ラセズ、少數ノ處ニ御話シタルト、是ハ投機ト云フモノニ關係有テ參リマシテ、有價證券ノ相場ノ上ニ關係有テ來ルト云フコトニナル、是ハ餘程オカシナ話ダト思ヒマスカラ、私ハ事實サウ云フコトハ決シテ無イト確信致シマス、是等ノ如キ事柄ハ、事實決シテアラザルモノト云フコトヲ私ハ信ジテ疑ハナイノデアリマス、唯昨日ノ貴族院ニ於ケル御答辯ハ是ハモウ疑ノナイ事實ニ相違ナイノデアリマス、アツコデ他ノ方法トマデ御話ニナル以上ハ、是ハ其方法マデ御説明下サツテ、廣ク御説明ヲ下サタナラバ、ドウデアルカ、コレニ付テ若シ追加豫算ヲモ出スヤウナ事デモアルナラバ、是ガ通ツテシマツテカラ追加豫算ヲ御出シニナルヨリハ、今マデ豫算案ノ衆議院ヲ通過セザル以前ニ於テ、成ルベク追加豫算ヲ御出シニナル方ガ宜イ、此事ニ付テモ大藏大臣ノ貴族院ニ於テ協賛ヲ經ベシ協賛ヲ求メマスト云フ事ヲ言フテ居ラレマスガ、何ノ協賛デアルカ分リマセヌガ、私ハ蓋シ追加豫算デハナイカト想像シマス、コレナラバ此豫算ガ衆議院ヲ通過タ後御出シニナラナイデ、今御出シニナタ方ガ私ハ適當デアルト思フ、吾ミガ審議ヲスル上ニ大變都合ガ好イト思フノデアリマスガ、併シ御都合ハドウデアルカ分リマセヌガ、コレハ出來ル事デアルヤ否ヤ、是モ質問ノ一トシテ御願ヒ致シマス、甚ダ冗長ニ涉リマシタノデ、一々御答ヲ得ナイカモ知レマセヌケレドモ、私ハ屢々大藏大臣ニ御質問ヲ申上ゲル機會ヲ此議會ニ於テハ有テマセヌノデ、此機ヲ利用シテ大藏大臣ニ甚ダ煩雜ヲ掛ケテ恐入リマスケレドモ詳細ニ、徹底ニ、明白ニ御答ヲ願ヒマス

〔大藏大臣武富時敏君登壇〕

○大藏大臣(武富時敏君) 小林君ニ御答致シマス、併シ小林君ノ唯今マデ御述ベニナリマシタ所ハ、政府ヨリ提出致シマシタ豫算ノ批評ニ互ツテ居ル事ガ十中八九ノヤウデアリマシタ、此批評ニ對シテハ私ハ答辯ヲスルノ必要ヲ見マセヌ、御尋ノ要領ヲ摘ミマスレバ誠ニ簡單デアリマス、第一ノ御尋ハ、此豫算ハ目下ノ時局ニ對シテ政府ハ更ニ遺憾ガナイト思フテ居ルヤ否ヤト云フコトデアリマス、之ニ對シテハ萬遺憾ナシトハ政府ハ信ジマセヌ、併ナガラ今日ノ財政經濟ノ狀態ニ於テハ、此程度ニ豫算ヲ組ムヨリ外ニ致方ガ無イト信ジテ居ルノデアリマス、次ハ財政ノ改善、其次ハ財源ノ改善、此改善ニ就テハ如何ナル事ヲ致シテ居ルカ、致シテ居ルナラバ其事ヲ一々説明シテ欲シイト云フ御尋ノヤウデアリマス、是ハ小林君ハ第二ヲ財政ノ改善トシ、第三ヲ財源ノ改善ト言ハレテ居リマスガ、財政ノ改善ト云ハ極メテ廣漠デアル、財源ノ改善ト云フ事ニ至ツテハ、餘リ意味ガ狭クナツテ、御答モ致シ易イノデアリマスガ、財政ノ改善ト云フ事ニ至ツテハ、餘リ意味ガ廣過ギテ何トモ之ニ御答致シヤウガアリマセヌ、併ナガラ免モ角此第二第三共ニ政府ハ銳意研究中デアリマス、今ツレヲ具體的ニ是ハ斯様、彼レハ斯様ト云フコトヲ説明スル時機ニ達シテ居リマセヌ、專ラ財政ノ改善ヲ計リ、財源ノ改善ヲ圖ルト云フコトニハ心カヲ盡シテ研究ヲ致シテ居ルノデアリマス、第四ハ公債、是ハ昨日元田君ノ質問中ニアリマシタヤウナ非募債主義云々ト云フコトヲ小林君モ御話ニナリマシタガ、此事ハ昨日元

田君ニ對スル答辯ニ私ハ明白ニ御答ヲシタ積デアリマス、政府ハ當分公債ヲ募集セズト云フコトハ宣言ヲ致シタガ、募債ヲ絕對ニ非ナリトスルト云フコトハ一言モ言ツタ覺ハナイ、何故ニ當分公債ヲ募集セズト政府ハ宣言シタカト言ヘバ、ツレハ當時ノ狀況ニ於テ從來外債ヲ募集シテハ正貨ノ缺乏ヲ補填シ、ツレガタメニ國內ノ正貨膨脹、物價騰貴、輸出減退、輸入増加ト云フコトニナツテ、貿易上極メテ不利ナ地位ニ立ツテ居ツタデアル、ツレガタメニ折角募集シタ外債ノ正貨ハ直ニ輸入超過ニ依テ持ツテ往カレ、忽チ正貨ハ缺乏シテ復再ビ外債ヲ募集シタケレバナラヌ、外債募集ニ外債募集ヲ重ネテ、借金ノ利息拂マデモ借金ヲシタケレバナラヌト云フ狀況ニナツテ居ツタ、此狀況ノ一變サセヤウト云フガ當分公債ヲ募集セズト云フ政策ノ起ツタ所以デアル(拍手起ル)然ルニ今日ハ時局ノ影響トシテ反對ノ結果ヲ來シテ、正貨ハ時局ノ影響ニ依テ俄ニ増加シテ、此正貨ヲ此儘ニ放ツテ置ケバ、小林君ノ言ハレタ通りニ或ハ正貨ノ膨脹ヲ來シテ、忽チ貿易ノ逆調ヲ招クヤウナコトニナリハセヌカト云フ虞ガ茲ニ起ツテ來タノデアリマス、ツレ故ニ政府ハ或程度マデ調節ノ必要ヲ認メテ居ル、之ヲ調節スルガタメニ、或ハ公債募集ノ政策ヲ取ルカモ知レマセヌ(變説ダ)ト呼フ者アリ(何ガ變説ダ(先見ノ明ガナカツタノデ)「變説ダ變説ダ」ト呼フ者アリ)一昨年ニ當ツテ何人モ今日ノ歐洲戰亂ヲ豫見シ得タ者ハナイ(拍手起ル)ツレカラ官業ノ整理、是ハ當年ノ六月、政府ハ官業整理委員會ヲ設ケマシテ、政府從來經營ヲ致シテ居ル官業ノ中、私經濟ニ屬スル事業モ妙カラズアルノデス、此私經濟ニ屬スル事業ヲ政府自ラ經營スルノハ、其當時ニ當ツテハ無論政府ノ經營スルニ必要ナル理由ガアツタニ違ヒナイ、理由アツタレバコソ政府ノ經營ニ屬シテ居ルノデアリマスガ、今日ニ至ツテハ此私經濟的ノ事業ヲ政府自ラ經營スルト云フノハ、一方ニハ民業ノ區域ヲ狹メ、又一方ニハ政府ノ行政ノ煩雜ヲ免レヌト云フ虞ガゴザイマスカラ、ツレ等ノ事業ハ十分ニ調査シテ、或ハ官民合同カ、或ハ專ラ之ヲ民業ニ移スカト云フコトヲ銳意調査致シテ居リマス、大分今日ハ調査ヲシタ其結果ノ案モ出來テハ居リマスガ、マダ尙慎重ニ慎重ヲ重ネテ調査ヲ致ス必要ガアリマスカラ、今日マデハマダ其結果ヲ茲ニ説明スルノ機會ニ達シナイノデアリマス、其次ハ外債償還、七ハ在外正貨ノ利用ト云フコトデ、是ハ小林君自ラモ此二ツハ關聯ヲシテ居ルト云フ御話デ、其通りデアリマス、此點ハ小林君ノ御述ベニナリマシタコトコト、政府ノ見ルトコロモ略々同一デアリマス、今日俄ニ増加シタ正貨ヲ利用シテ、外國債ヲ出來得ル限り減少ヲ致スト云フコトハ、昨日演説中ニモ述ベ置イタ通りデアリマス、專ラ政府ハ此事ヲ今攻究致シテ居リマス、然ラバドウ云フ方法ヲ取ルカト云フコトニ至ツテハ、今日マデハ遺憾ナガラ此所ニ説明スルコトハ出來マセヌ、何レ早晚説明スルノ機會ガ到達スルデラウト思ヒマス、出來得ル限り此正貨ヲ利用シテ、外國債ノ負擔ヲ負擔ヲ出來得ル限り減少ヲ圖ルト云フコトニ、政府ハ專ラ努メル積リデアリマス、現ニ其方法ハ攻究中デアリマス、此事ニ付テハ如何ナル形デ諸君ノ協賛ヲ求メルヤウニナリマスルカハ、マダ今日デハ説明スルノ機會ニ到達致シマセヌガ、何レ早晚其機會ニ到達スルト、信ジマス(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 長島隆三君

(長島隆二君登場)

(拍手起ル)

○長島隆二君 私ハ外交上ノ問題ニ付キマシテ、昨日閣下ノ御質問ニ對シテ外務大臣が御答アリマシタガ、其點ニ付キマシテ補充的ノ質問ヲ致シマス、尙進ミマシテ陸軍當局ニ對シマシテ、兵器賣却並ニ補充兵器製造ニ關スル點ニ付キマシテ質問致シマス、又海軍大臣ニ對シマシテ軍艦製造費ノコトニ付テ御尋申上ゲタイト考ヘマス、昨日來ノ質問應答ニ依リマシテイロノ點が明白ニナリマシタ、内務大臣が此席ニ於カレマシテ、留任問題ニ付キマシテ御答ノ中ニ、總理大臣が重責不行居ノ責任ニ對シテ辭表ヲ捧呈サレタ所、幸ニシテ御聽許ガナカッタ、モウ此一言最早總理大臣が明カデアリマス(「ヒヤノ」拍手スル者アリ)即チ辭表ヲ捧呈サレタル總理大臣ハ、御聽許ナキコトヲ期待シテ居タト云フコトノ心事が明白ニナッタデアリマス、又一木君ハ御聽許ガナカッタカラシテ、成敗利鈍ヲ問ハズシテ留任スルコトニ致シタト云フコトデアリマシタガ、閣員ノ成敗利鈍ト云フコトハ、一身ノ成敗利鈍トモハ解スルコトハ出來ヌデアリマシテ、閣員ノ失敗ハ即チ國政上ノ失敗デアアル、閣員ノ成功ハ即チ國政上ノ成功デアアル、此内閣が留任スルニ當リマシテ、何等主張スル政策モナク、又成功ノ見込ナク、成敗利鈍ハ之ヲ問ハズシテ、失敗スルモ敢テ厭ハズト云フ意思ヲ留任ヲシタト云フコトモ、亦内務大臣ノ御答辯ニ依テ明白ニナリマシタコトヲ甚ダ遺憾トスルデアリマス(拍手起ル)唯今小林君ノ最も熱誠ナル、又最も研究ナル御質問ニ對シマシテ、大藏大臣ヨリ御答辯ガアリマシタ、御答辯ノ中ニ廢減稅ノコトニ對シテハ、何等御答が無カッタコトヲ甚ダ遺憾ト致シマス、恐クハ御答辯ガ出來ナイデアラウト思フ、財源ノ減少シタル主ナル原因ハ關稅收入デアアル、關稅收入ガ然ラバ復舊シタル場合ニ於テ、廢減稅ヲ如何ニ取扱フト云フコトハ、是ハ小林君ノ最も適切ナル御質問デアッタデアリマシタガ、御注意深イ武富君が一言御答ノ無カッタコトヲ甚ダ遺憾デアリマスガ、此御答ノ無イト云フコトモ、亦政府ノ考が略何處ニアルカト云フコトヲ推測スル材料ニナルデアラウト存ジマス、公債募集ノコトニ付キマシテ、小林君ノ御質問ニ對シテ武富君ハ非常ナ莊重ナル言葉ヲ以テ御答ガアッタ、非常ナ強イ意味ノ言葉ヲ以テ御答ガアッタ、政府ハ變説シタノデナイ、何時變説シタ、一昨年ニ歐洲ノ此大亂ハ誰ガ豫想シタカト云フヤウナコトヲ仰セラレマシタガ、私ハ是ハ大藏大臣ノ曲辯デアルト思フ(「ヒヤノ」呼フ者アリ)昨年又一昨年ノ是ハ事デ無イデアリマス、現ニ本年ノ六月ノ臨時議會ニ於テ、吾々ガ政府ニ對シテ疑問ヲ懷キ、殊ニ貴族院ニ於キマシテ多數ノ人々ガ減債基金減少ノ議論ヲ致シタル場合ニ於テ、政府ニ對シテ論議シマシタノ公債募集ハ出來ルデアリカ、内地ノ今日ノ經濟狀況ニ於テ内債募集ハ出來ルデアリカ、然ルニ鐵道資金ヲ他ニ得ルノ途ガ無イカラシテ、租稅ヲ收入トシテ居ル一般財源ヲ鐵道資金ニ充ツルコトハ、政策ノ誤リデアルト云フノガ吾々ノ議論デアアル、又貴族院ノ多數ノ議論デアッタ、ソレニ對シテ時ノ大藏大臣若槻君ハ何ト答ヘラレタ、ドウシテモ内債募集ガ出來ナイ狀態ニ在ル、内債募集ガ出來ヌカラ、鐵道資金ハ必要デアルガ、必要ナル資金ノ調達ガ出來ヌカラ、已ムラ得ズ租稅ノ收入ヨリ成立ッテ居ル一般歳入ト云フモノヲ繰入ル、外ナイト云フコトヲ言ッタデアリマ

スガ、此六月ニ於テ内債募集ガ出來ヌト云フコトヲ言ウタ内閣ガ、今日ニ於テ内債募集ハ出來得ル狀態ニ在ルト云フコトハ、是レ變説改論デアアリマセヌカ(「ヒヤノ」呼フ者アリ)一昨年から今年、或ハ歐洲ノ大亂ノ起ル前ニ此事實言ハレタデアリマシタナラバ、吾々ハ其間ノ狀況ニ變化ガアッタト云フコトヲ認ムルデアリマスガ、本年ノ六月而モ六月以前、本年ノ一月カラ内地ノ金融ハ漸次緩和致シテ來テ、内債募集ノ出來ル狀況ハ本年四月五月頃ニ明ニナッタデアリマス、其時ニ於テ内債募集ガ出來ナイ、内債募集ノ時ニ非ラズト言ハレタ内閣ガ、今日ニ於テ内債募集ガ出來ルト云フコトヲ認ムルニ至リマシタハ、其間ニドウシテモ變説改論ガアッタト言ハザラ得ヌ、又官業整理ニ對シマシテ大藏大臣ハ目下研究中デアルト言ハレマシタガ、官業整理ノ急ヲ説キ、官業整理調査委員會ヲ設ケラレマシタガ、其調査委員會ノ會合ハ私ノ知ッテ居ルトコロニ依ルト、七月頃ニ數回アッタケデアッタ、其後全ク中止サレテ居ルデアリマス、實ヲ申シマスルト、同志會ハ官業整理ノコトヲ一ツノ政策トシテ天下ニ發表シタデアリマシテ、ソレハ一昨年ノコトデアアル、又現内閣ノ組織サレタノハ昨年ノ四月デアリマシテ、現内閣ノ組織後間モナク官業整理ノコトヲ一ツノ大方針トシテ天下ニ發表致シタデアリマシタガ、漸クニシテ本年ニナッテ調査委員會ヲ府ヘテ、調査委員會ハ數回會合シタケデアッタ、二回ノ豫算編成ヲ致シテ居ルガ、一回目ノ此度ノ豫算案提出ノ場合ニ於テ、官業整理ノ結果ガ少シモ現ハレテ居ラヌト云フニ至ッテハ、私ハ調査研究中ト云フコトハ最早許スコトガ出來ナイデアッテ現内閣ハ官業整理ノ希望ガアッタラウガ、何等案ガ無カッタノミナラス、又是ヲ實行スルノ誠意ナキモノナリト今日ニ於テ斷定致シテ宜カラウト思ヒマス、正貨問題ニ付キマシテハイロノ是ハ重大ナ問題デアリマシテ、今日短イ時間ニ於テ盡スコトガ出來マセヌカラ、小林君ノ質問ニ對スル大藏大臣ノ説明ノ甚ダ不足デアアル、不満足デアルト云フ一言ヲ以テ今日ハ止メテ置キタイト思ヒマス(質問ニ入ルベシト呼フ者アリ)唯今ノ質問應答ガアリマシテ、ソレニ對シテ甚ダ遺憾トスル點ガアリマスルカラ、其事ヲ申上ゲタデアリマス、昨日ノ閣下ノ御質問ニ對シテ外務大臣ヨリ御答辯ガゴザイマシタ、外交上ノコトハ言葉ヲ慎マナケレバナリマセヌカラ、成ベク注意ヲ致シテ御尋ヲ申上ゲマス、單獨講和加入ノ問題デゴザリマス、倫敦宣言ニ加盟サレタル問題デアリマス、此問題ニ付キマシテ外務大臣ハ昨日ノ御演説ニ於テモ、亦御答辯ニ於キマシテモ、從前ノ關係ヲ其儘ニハ形ノ上ニ現ハセタデアアル、何等絶對的必要ハナイデアアルガ、英吉利ノ希望ガアッタノカラシテ、英吉利デハゴザイマセヌ、御演説ニ依リマス、二國政府ヨリノ希望ガアリマシタカラ、之ヲ形ニ現ハシタ、斯ウ云フ御説明ガアリマシタ、此點ニ付キマシテ私ハ疑ヲ持ッテ居ルデアリマス、先ヅ第一ニ私ノ御尋申上ゲタイノハ、此度ノ日獨開戰ハ日英同盟條約ノ義務ニ因ッテ開カレタデアリマス、即チ日英同盟條約ノ第二條ニ基ク是ガ戰爭デアルト云フコトニ外務大臣ハ御解釋ニナルデアアルカ、此點ヲ御尋ネ致シマス、日英同盟條約ニハ其前文ニ於テ條約ノ目的トスル地域ガ限ラレテ居リマス、即チ第一「イ」所ニ於キマシテ東亞及印度ト云フコトガアリマス「ロ」ニ於テ支那帝國——清國ト云フコトガアリマス「ハ」ニ於キマシテ又東亞及印度即チ日英同盟條約ノ目的トスル所ノ地域ニハ限定ガアルデアリマス、而シテ第二條ニ

於テノ戰爭ニ就テモヤハリ其地域ニ關シテ領土權又ハ特殊ノ利益ト云フコトガ目的ニナツテ居ルノデアアルガ、此度ノ戰爭ハ第二條ニ揭ケラレタル特殊ノ利益、又ハ領土權ニ關シテ起ツタモノデアアルカドウカ、私ハ此點ニ就テ甚ダ疑フ持テ居ルノデアアリマシテ、此度ノ戰爭ハサウデハナシ、日英同盟條約ノ發動ニ依テ行ハレタノデアアリマセヌデ、日英同盟ノ誼ニ依リ行ハレタモノデアアルト云フ解釋ヲ持テ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ前外務大臣加藤男爵ハ、或ハサウ云フ御解釋ヲ取ツテ居タノデアナシカト思ハル、筋ガアルノデアアリマシタガ、ソレハ常ニ外務大臣ガ日英同盟條約ニ依テ此戰爭ヲヤツタト云フコトヲ申シテ居ラレマセヌデ、常ニ言葉ヲ慎マル、加藤男爵ハ、日英同盟ノ誼ニ依リト云フコトヲ申シテ居ラレマシタガ、其意味ハ或ハ第二條ノ義務トシテ此戰爭ヲ開始シタノデアナシト云フ御解釋ヲ取ツテ居ラル、ノデアナシカト私ハ思フテ居リマスガ、現外務大臣ハ果シテ此點ハ如何ニ御解釋デアリマスガ、又第二條ニ依ル戰爭ト致シマス、直ニ戰爭ニ日本ハ參加シナケレバナラヌデアリマス、第二條ニ於キマシテハ、其特殊ノ利益又ハ領土權ガ侵害サレテ戰爭ガ起ツタ場合ニ於キマシテハ、同盟國ノ他ノ一國ハ直ニ戰爭ニ參加スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、日獨ノ開戰ノ場合ニ於テハ、直ニ日本ハ參加致シテ居ラヌデアリマシテ、先ヅ獨逸ニ對シテ最後通牒ヲ發シ、幸ニ獨逸ガ日本ノ要求ヲ容レタナラバ、戰爭ニ參加セナシト云フ、其間ニ開戰ガアルノデアリマスガ、此處置ヲ以テ見マシテモ、日本ガ此戰爭ニ參加致シタルハ同盟條約ノ義務、即チ第二條ノ發動ニ依テ參加致シタノデアナシカトシテ、同盟ノ誼ニ依テ參加致シタノデアアルト私ハ解釋致スデアリマスガ、直ニ參加致サザリシ此戰爭ハ、是ハヤハリ第二條ノ義務ニ依テ日本ガ參加致シタモノト外務大臣ハ御解釋ニナルデアアルカ、其點ヲ御尋ネ申上ゲタイノデアリマス、第二條ノ義務トシテ參加致シタモノデアリマスナラバ、第二條ノ末文ニアリマス講和ニ關スル事、即チ交戰兩國ハ雙方合意ノ上講和ヲ爲スト云フコトニナツテ居ル、此箇條ガ適用サル、ノデアリマス——此箇條ガ適用サル、ノデアリマスガ、若シ私ノ解釋スルカ如ク、第二條ノ發動ニ依テ開始サレタル戰爭デアナシト致シマスナラバ、此最後ノ文章、末文ノ適用ハナシデアリマスガ、其點ニ對スル外務大臣ノ御解釋ハ如何デアリマスルカ、之ヲ御尋致シタイ、若シ第二條ニ依テ開始サレタ戰爭デアナシ、又隨テ末文ノ適用ガナシ、即チ雙方合意ノ上講和スルト云フ此適用ガナシト致シマスレバ、日本ハ日英同盟條約ニ依リマシテモ、此度ノ戰爭ニ於テ單獨不講和ト云フ義務ハナシ、サウ云フ關係ニナシト云フコトヲ結論致サナケレバナラヌデアリマス、其點ニ付キマシテ私ハ詳細ナ御説明ヲ願ヒタイノデアアル、是ガ非常ナ關係ヲ有ツテ居ルノデアリマシテ、外務大臣ハ昨日、今マデノ關係ガ同盟ノ條約ニ依テ既ニ單獨不講和ノ關係ニナツテ居ルカラ、唯之ヲ形式ノ上ニ現ハシタニ過ギズト申シテ居ラレマスガ、私ノ解釋ニ依レバ同盟條約ニ依テ開始サレタル戰爭ニアラズ、隨テ又今マデ同盟條約ノ第二條ノ末文ノ適用ハ此戰爭ニハナシデアアルト云フ解釋ヲ有ツテ居ルノデアリマシテ、若シ私ノ解釋スルカ如クデアリマシタナラバ、日本ガ單獨講和セズト云フコトハ、此度ノ倫敦宣言加入ニ依テ初メテ日本ニ生ジタル義務トナルデアリマシテ、是レハ戰爭ノ終局ニ對スルバカリデアアリマセヌ、條約ノ解釋ト致シマシテモ極メテ大切ナル問題デアリマス

ルカラ、此點ニ就テドウカ十分ナル御教示アラントヲ希望致スデアリマス、又假ニ同盟條約ノ關係ガ、外務大臣ノ解釋セラル、ガ如クト致シマシテモ、此度ノ單獨不講和ノ宣言加入ニ於テハ、實質ガ大ニ相違致シテ居ルト思フデアリマス、今マデノデハ日本ハ英吉利ノ間ニ於テ、雙方合意ナケレバ講和ガ出來ナシト云フコトニナツテ居リマスガ、此度ノ單獨不講和ノ加入ニ依リマシテ、日本ガ露西亞トモ合意ノ上デナケレバ講和ガ出來ナシ、佛蘭西トモ亦合意ノ上デナケレバ講和ガ出來ナシ、而シテ講和會議ニ提出スル條件ニ付テモ、以前ノ狀態デアリマスルト、多少疑問ガアリマスガ、免ニ角英吉利ト相談致シテ、英吉利ノ同意ヲ得レバ宜シノデアアルガ、此度ノ單獨不講和ノ宣言加入ニ依リマシテ、日本ガ講和會議ニ提出致ス條件ハ、一方ニ於テハ英吉利ノ同意ヲ得ナケレバナラヌガ、露西亞佛蘭西ノ同意モ得ナケレバナラヌト云フコトニナルデアアル、此點ニ於テ即チ條件ノ上ニ於テ、又講和スルヤ否ヤト云フコトニ於テ、露西亞ノ同意ヲ得ル、佛蘭西ノ同意ヲ要スルト云フコトガ、更ニ加ハタヤウニ思フデアリマスガ、此點ハ外務大臣ハ如何ニ御考デアリマスルカ、是モ亦實際ノ適用ニ於テナル關係ガアルト私ハ信ズルデアリマス、又外務大臣ノ御演說ニ依リマス、單獨不講和ノ宣言ニ加入致シタコトハ、絕對ノ必要ハナシデアアル、併ナガラ聯合諸國ノ決心、及結合ノ益、鞏固ナルコトヲ内外ニ宣明スル所以デアッテ、ソレガ戰爭ノ結果ニ對シテ利益ガアリ、又戰爭ノ終ニ於テ講和ノ場合ニ於テ諸國ノ關係ヲ一層明カニスルト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアリマスガ、是ハ如何ナル意味デアリマスルカ、戰爭ノ結果ノ上ニ多少ノ利益ガアルト云フコトハ認ムルデアリマスガ、戰爭ノ終、講和ノ上ニ於テ諸國ノ關係ガ一層明カニスルト云フコトハ如何ナル意味デアリマスルカ、此單獨不講和ノ宣言ニ加入シナケレバナラバ、日本ハ聯合諸國トノ關係ガ極メテ不明瞭ナルデアアルト云フ狀態ニ今日マデ在ッタノデアリマスルカドウカ、其點ニ付テ御説明ヲ願ヒタイノデアアル、率直ニ私ヲシテ言ハシメタナラバ、今マデ日本ノ此戰爭ニ參加シタ狀態ハ、甚ダ不安心ナル甚ダ不明瞭ナル狀態ニ在ッタヤウニ私ハ考ヘルデアアル（「ヒヤ」）即チ獨逸ニ對シテ開戰ヲ爲シタ其場合ニ於テ、是ガ同盟ノ義務トシテ開戰致シタモノデアアルカ、同盟ノ誼トシテ開戰致シタモノデアアルカガ明カデナカッタ、又日本ノ目的ガ歐洲戰爭其モノニ參加シテ、歐洲ノ勝敗ニ對シテマデ日本ガ實力ヲ以テ爭フト云フ意味デアッタカ、或ハ同盟條約ノ目的トシテ居ル東亞及印度ノ平和ヲ維持スルト云フ點ニ在ッタノデアアルカ、吾々ハ東亞ノ平和ガ維持サレテ居ルナラバ、何モ兵力ヲ使フ必要ハナシト云フ議論ヲ常ニ持ツテ居ル者デアリマスルカ、此度ノ戰爭ニ於テ、日本ガ歐洲ノ野ニ飛出シテマデ、其大勢ヲ左右スルノ決心ヲ以テ始メタ戰爭デアアルカ、或ハ唯東亞ノ平和ヲ維持スルケノ意味デアッタノデアアルカ、其點モ不明瞭デアッタノデアリマス、又日本ト英吉利ノ關係ガ、是ハ甚ダ遺憾デアゴザイマシタガ、十分明カデナカッタ點ガアルデアアル、英吉利ニ對シテ日本ガ同盟ノ誼ニ依テ、即チ犧牲ノ二或ハ義侠ノニ參加致シタト云フコトヲ英吉利ガ十分認メテ、日本ノ此行為ニ對シテ十分ナル英吉利ガ得心ヲサレテ居ッタノデアアルカト云フコトモ、甚ダ疑ハシイ狀態ニ在ッタノデアリマス、又日本ト他ノ諸國トノ關係モ甚ダ不明瞭ナル狀態ニ在ッタコトハ事實デアリマシテ、此等ノ不明瞭ナコトガ此度ノ單獨不講和ノ宣言加入ニ依テ明瞭シタト云フコトデアリマスルナラバ、其點ヲ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、何トナ

シニ吾々が感ずマスルハ、是ハ一ツノ感シデアリマスルカラ、其意味ヲ以テ御聴取ヲ願ヒタ
 イノデアリマスガ、今マデハ英吉利が好マザルニ日本が戰ニ參加致シタ、日本ノ此戰ニ
 參加致シタコトハ犧牲的デアアル、義俠的デアアルト云フ誠意が十分徹底シテ居ラナカッタ
 ウニ思フ、即チ若シ是が十分徹底致シテ居ラバ、或ハ昨年ノ九月、歐洲三國ニ於
 テ、單獨不講和ノ宣言ノ約定ガアリマシタ場合ニ於テ、同ク日本モ平等ニ此宣言ニ參
 加スルコトが出来タデアリマセウガ、其時ニハ出來ナカッタ、今日ニナッテ歐洲ノ形勢ガ
 稍々變化致シテ來、戰爭ノ狀況ガ大ニ變ハツテ來タ、甚ダ是モ申スコトハ遺憾デアリマス
 ガ、獨逸ノ地位ガ餘程有力ナモノナルヤウナ傾向ガ現ハレ、茲ニ至ッテ初メテ單獨不講
 和ノ約定ニ日本モ參加セヨト云フコトガ出テ來タデアリマスルガ、此單獨不講和ノ加入
 ノ問題ガ現レテ來タノガ、若シ日本ノ政府ノ意思ノ發動ニ基クモノナラバ、是モ一ツノ行
 方デアッタデアリマセウガ、昨日ノ外務大臣ノ御説明ニ依リマスルト、是ハ日本政府ノ意
 思ノ發動ニ基クニ非ラズシテ、三國政府ノ希望要求ニ出テタト云フコトヲ承知致シタノ
 デアリマスガ、果シテ是ハ昨日ノ御演說ノ通り、日本ガ勵キ掛ケノ關係ニ立ッテテナクシ
 テ、英吉利ガ勵キ掛ケノ關係ヲ持ッテデアアルカ、其點ヲ御説明願ヒタイノデアアル、元
 來申シマス、總テノ點ガ日本ハ指導ノ位置ニ立タズシテ、他ノ國ガ指導ノ位置ニ立
 ツ、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、日本ノ歐洲戰ニ對スル關係ハ、戰爭參加者ガ日本
 ノ發動ニ基キテ居ルガ、其外ノ總テノ點ニ於テハ日本ガ常ニ從屬ノ關係ニ在ルヤウニ
 私ハ思フデアリマス、單獨不講和ノ宣言加入ハ、日本ノ自主的外交ノ發動デアアルカ、
 或ハ今マデノ如ク從屬的屈從的ノ外交ノ結果デアアルカ、此點ハ十分承知シタイノデア
 リマスガ、時間ノ御注意ガアリマシタカ成ルベク簡單ニ致シマス、ソレ段々此外交
 ノ變化ガ歐洲ノ戰局ニ引付ケラレテ行クヤウナ真ガアル、英吉利ガ常ニ指導的ノ位置ヲ
 執ッテ、日本ガ從屬的ノ位置ニ立ツ、此度ノ倫敦宣言加入ニ付テモ同様ノ疑ガアルノ
 デアリマシテ、昨日關君ハ之ニ關シテ何カ別ニ義務ガ發生シタノデハナイカト云フ御尋ガ
 アリマシタガ、是ニ對シテ外務大臣ハ明白ニ別ニ義務ハ無イト云フコトデアリマス、併ナ
 ガラ政治的ニ別ノ義務デアリマセウガ、別ニ關係ガ出來タヤウニ何トナシニ思ハレルノデア
 リマシテ、世間デハ印度人ノ追放ノ問題ノ如キモ、亦此形勢ニ伴ウテ起ツタ事デアアルト
 云フヤウニ解釋致シテ居ルデアリマス、是ハ解釋スル者ガ宜シクナイデアリマセウガ、免
 ニ角單獨不講和ノ宣言加入ト云フコトハ、今マデヨリモ更ニ一層日本ノ地位ガ歐洲ノ戰
 局ニ引摺リ込マル、ヤウナ傾向ヲ持ッテ來タヤウナ疑ヲ多クノ人ハ持ッテ居ルデアリマ
 スカラ、是等ノ點ニ付テ十分ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、又對支警告ノ問題ニ
 付テ御尋ヲ致シマス、昨日外務大臣ハ此席ニ於キマシテ、今後執ルベキ處置ニ付テ
 ハ、今尙他國ト協議中デアアルカラ、之ヲ發表ガ出來ナイト云フコトデアリマシタガ、此御答
 辯ニ付テ私ハ亦甚ダ遺憾ニ感ズルデアリマス、對支警告ヲ發セラレタ後、既ニ今日マ
 デ時ガ久シイノデアアル、支那カラ回答ノ來マシタノモ先月ノ半デアリマシテ、最早一月ヲ
 經過致ス有様デアアル、元々對支警告ヲ爲ス場合ニ於テ、直ニ袁世凱ガ之ヲ承知スルモ
 ノトシテ發セラレタデアアルカドデアアルカ、私共多少支那ノ事ニ付テ研究致シテ居ル者
 カラ申シマス、袁世凱ガ此警告ヲ直ニ容レナイ立場ニ在ル、即チ帝制問題ハ支那ノ
 情勢ニ應ズルヤ否ヤハ別ナ問題ト致シマシテ、帝制ニスルト云フコトガ袁世凱氏ノ一身

ヲ擁護スル爲メ、其政權ヲ擁護スル爲メ、又進シテハ袁家一家——若シ露骨ナ言葉ヲ
 使ヒマスナラバ、袁氏ト云フ一ノ閥族ノ勢力ヲ維持スル爲メニ絕對必要ナデアリマシテ、
 此事ニ著手シタル後、日本ガ他ノ國ト協同シテ警告ヲ致シマシテモ、ソレニ直グ應ズルコ
 トハ出來ナイ、縱シ内心ニ於テ應ジタイと思フテモ、應ズル能ハザル現在ノ關係位置ニ
 在ルト云フコトヲ私共ハ考ヘテ居ルデアリマスガ、恐クハ政府ニ於テモ警告ヲ發セラル、
 場合ニ、直グ之ガ容レラレルモノト云フ御考ハ無カッタデアリマセウガ、斯ウ云フ情勢アリ
 ナガラ、警告ニ對スル回答ガ參ッテカラ、最早一箇月ニナル今日ニ於テ、今頃漸ク各國ト
 相談致シテ居ルト云フコトハ、輒チ此警告ヲ發スル場合ニ於テ日本ニ何等ノ決心モ
 無ク、何等ノ準備モ無カッタ證據デアアルデアリマシテ、昨日ノ外務大臣ノ此御答辯
 ニ付テ、甚ダ私ハ遺憾ヲ感ズルデアリマス、元來警告ノ時機ハ宜カッタデアリマセウガ、
 本年ノ六月ノ終リ七月頃カラシテ此帝制ノ運動ハ始ッテデアリマシテ、此時機ニ於テ
 警告ヲ發シタナラバ、之ヲ容レル者モ尙容レ善カッタデアリマセウガ、帝制ノ準備ガ大ニ
 進ミタルトキニ至ッテ始メテ警告ヲ發シテハ、其時機ヲ得ナカッタヤウニ思フデアリマス、
 現ニ此點ニ付マシテハ甚ダ是ハ外務大臣ニ御氣ノ毒デアリマスガ、外務省全體、又支那ニ
 在ル各國使臣、皆警告其時機ニ非ズト云フ考ヲ持ッテ居ルデアアル、時機ヲ得ナイ警告
 デアルト云フ考ヲ皆持ッテ之ヲ發表——公然デアリマセウガ之ヲ洩シテ居ルハモアルデア
 リマシタガ、何故ニ警告ヲ與ヘルモノト致シタナラバ、之ヲ此運動ノ開始セラレタル初、即チ
 帝制ノ準備ガ未ダ十分成ラザル時ニ於テ爲サズシテ、遷延久シキニ互ッテ其時機ヲ得ザ
 ル場合ニ於テ之ヲ爲シタデアリマスガ、時機ノ後レタ所以ニ付テ御説明ヲ願ヒタイノデア
 リマス、又此警告ヲ發スル場合ニ於キマシテ英吉利露西亞ト協同ノ行爲ニ出テ居リ
 スガ、是ハ何ノ必要ニ出タノデアアルカ、支那ニ對シテ日本ガ十分日本ノ意思ヲ徹底ス
 ルダケノ——唯今議長ノ御注意ガゴザリマシテ、今日時間ガ最早來テ居ルサウデアリマ
 スカラ、明日續キマシテ此質問ヲ致シタイト考ヘマス、明日續イテ此質問ヲ致シマス
 ○議長(島田二郎君) 明瞭ニ意味ヲ諸君ニ御告ゲ申シマス、外務、大藏、海軍、文
 部ノ四大臣ガ宮中ニ召サレテ居リマス、昨日モヤハリ其理由ヲ以テ四時ニ議會ヲ鎖シ
 タ、是ヨリ服ヲ更メテサウシテ五時頃ニハ參内シナケレバナラヌ、此事ヲ演說者長島君ニ
 御照會シタ譯デアリマス、意義ハ斯ノ如キモノデアリマス、サウ致シマスルト、外務、大藏、
 海軍、文部ノ四大臣ガ去ル理由ハ違ッテ居リマスガ、大隈總理ガ去ラレタト同ヤウニ去
 ル必要ニ迫ッテ居リマス、是ガ事實デアリマス、長島君ハ唯今議長ニ答ヘテ、明日此演說
 ヲ繼續スルコトガ出來ラナラバ決シテ異存ハナイ、斯様ニ答ヘラレタモ亦事實デアリ
 マス、之ヲ御報告致シマス——福田又一君——今ハ報告ニ止ッテ、議長ハ何モ申シマ
 セヌ——福田又一君
 ○福田又一君 尙質問應答ヲ續ケルコトニ致シマシテ、今日ハ是ニテ散會セラレシコト
 ヲ望ミマス
 (贊成々々ト呼フ者アリ)
 ○議長(島田二郎君) 御異存ガアレバ決議ヲ採リマス——御異存ガナイト認メマス、
 明日ノ日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、是ニテ散會
 午後四時十一分散會

